

複合化技術で
未来をささえる



2026年3月期

決算説明資料

藤倉コンポジット株式会社 | プライム市場：5121

作成日：2026年6月12日

2026年3月期

決算説明資料

1. 2026年3月期 決算
2. 2027年3月期 業績予想
3. 中期経営計画の進捗状況
4. ゴルフシャフト事業紹介
5. Appendix



1. 2026年3月期 決算

- 04 決算サマリー
- 05 概要
- 06 売上高・営業利益 増減
- 07 主要セグメント別
- 08 主要セグメント別 営業利益の増減要因分析
- 09 売上高 セグメント別・地域別マトリクス

■ 連結業績

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	前期比 (%)
売上高	40,611	40,238	▲0.9%
営業利益	4,621	4,838	+4.7%
営業利益率 (%)	11.3%	12.0%	+0.7pt
当期純利益	3,735	3,987	+6.7%

■ 決算のポイント

01. 取り巻く環境

- 国内経済は、雇用・所得環境の緩やかな改善を背景に堅調に推移。
- 地政学リスクに対しては予断を許さない状況が継続。

02. 売上面

- 国内の自動車関連部品及び住宅設備関連部品は受注が回復傾向。
- 半導体・液晶製造装置の設備投資が低調。
- シャフトはアジア市場は低迷、米国市場は消費減退。

03. 営業利益面

- 産業用資材・引布加工品は、受注の増加、取引価格の適正化により増益。
- シャフト部門は、海外市場の景気低迷。物価高騰による消費減退により減益。

(単位：百万円)

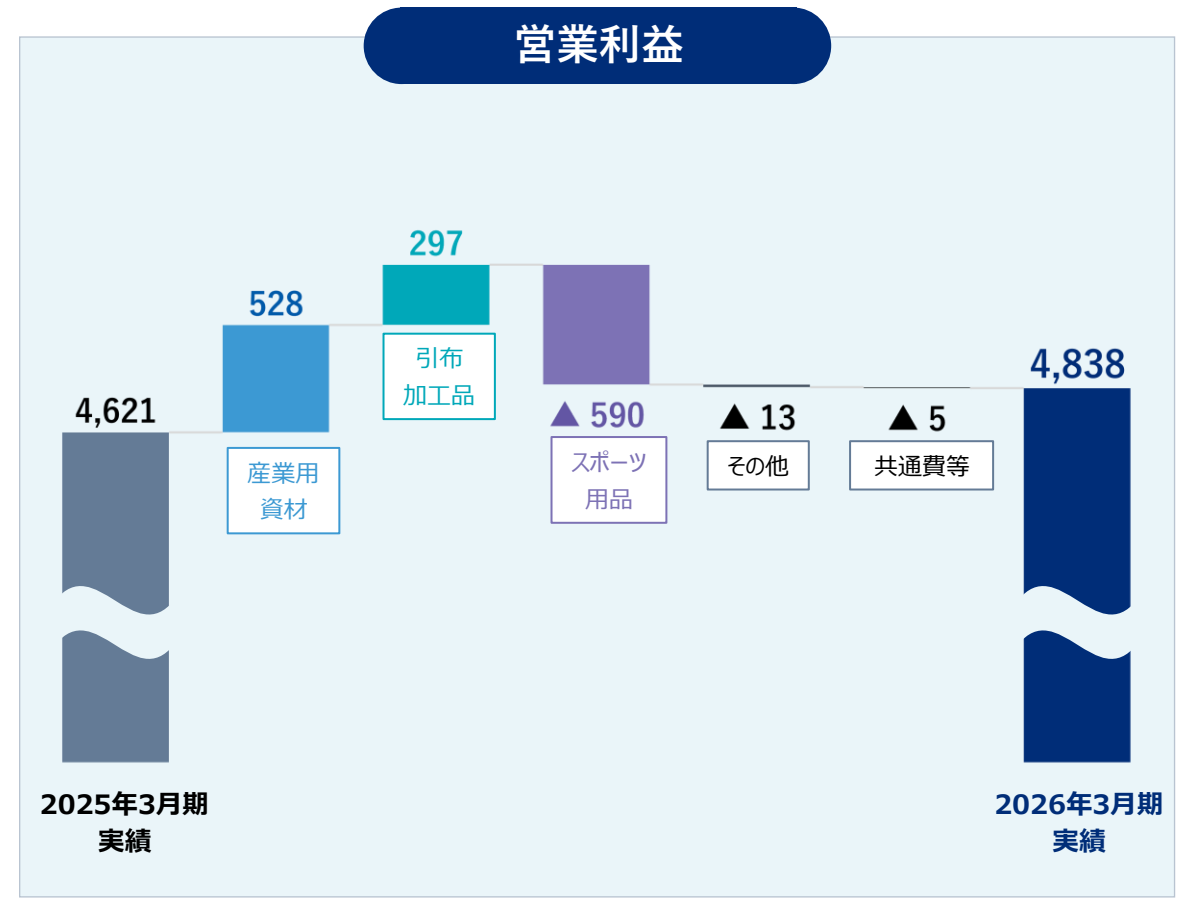
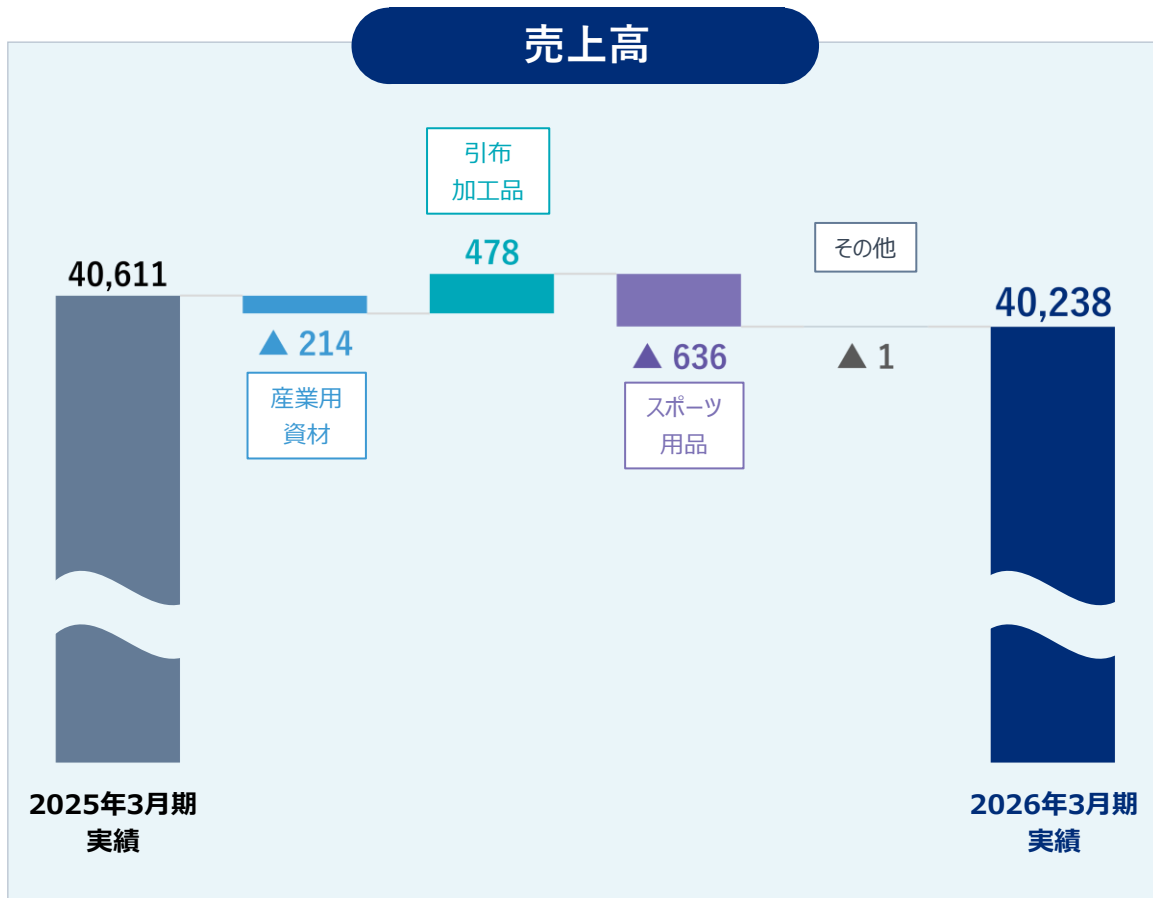
	2025年3月期		2026年3月期		前期比		2026年3月期 公表予想		
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率	金額	売上高比率	達成率
売上高	40,611	100.0%	40,238	100.0%	▲373	▲0.9%	40,700	100.0%	98.8%
営業利益	4,621	11.3%	4,838	12.0%	+217	+4.7%	5,000	12.2%	96.7%
経常利益	4,855	11.9%	5,104	12.6%	+249	+5.1%	5,200	12.7%	98.1%
当期純利益	3,735	9.1%	3,987	9.9%	+252	+6.7%	3,800	9.3%	104.9%
1株当たり当期純利益 (円)	190.46	—	208.61	—	+18.15	—	193.73	—	107.7%

■為替 (円)

USD	151.69		149.61		▲ 2.08		145.00		
RMB	21.03		20.81		▲ 0.22		20.00		

売上高・営業利益 増減

2025年3月期 実績 ⇒ 2026年3月期 実績



前年同期比

▲373 百万円

【前年同期比】

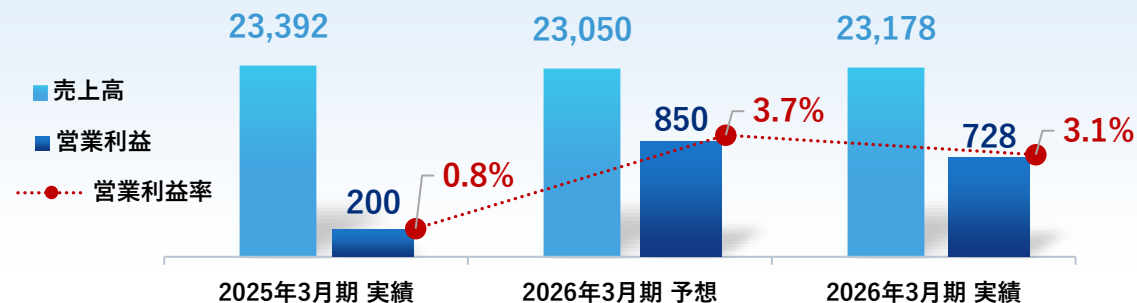
+217 百万円

主要セグメント別 2025年3月期 ⇒ 2026年3月期

産業用資材

(単位: 百万円)

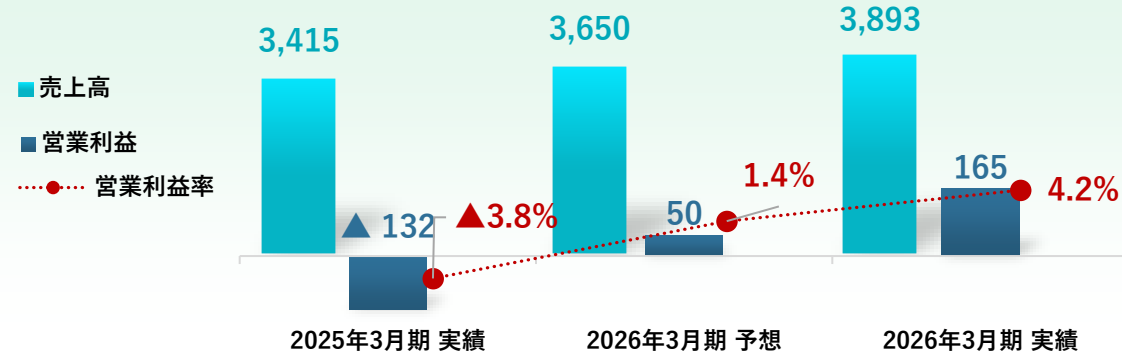
	2025年3月期 実績	2026年3月期		前期比 (%)
		初予想	実績	
売上高	23,392	23,050	23,178	▲0.9%
営業利益	200	850	728	+264.0%
営業利益率	0.8%	3.7%	3.1%	+ 2.3pt



引布加工品

(単位: 百万円)

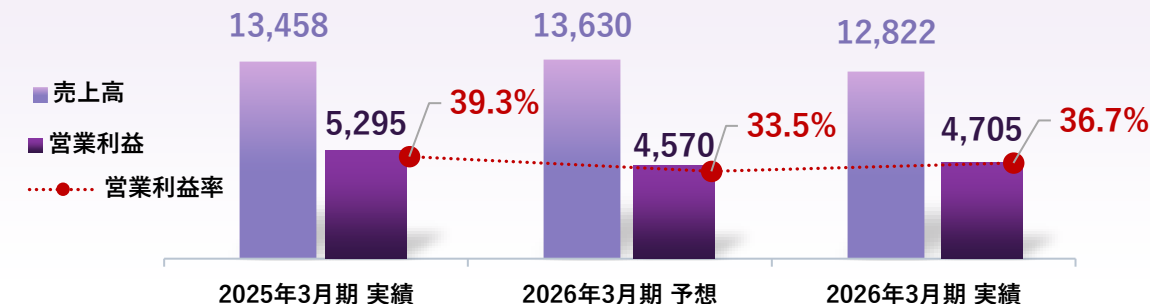
	2025年3月期 実績	2026年3月期		前期比 (%)
		初予想	実績	
売上高	3,415	3,650	3,893	+13.9%
営業利益	▲132	50	165	—
営業利益率	▲3.8%	1.4%	4.2%	+8.0pt



スポーツ用品

(単位: 百万円)

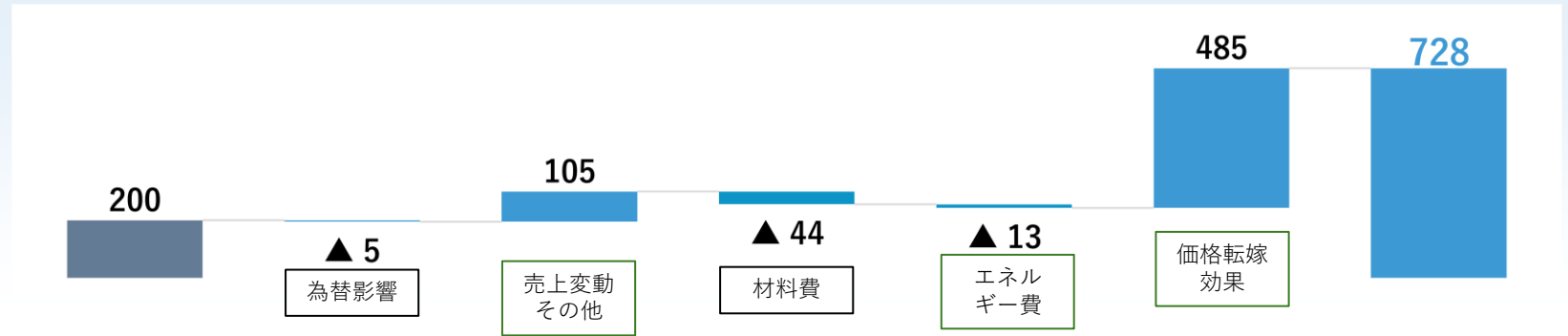
	2025年3月期 実績	2026年3月期		前期比 (%)
		初予想	実績	
売上高	13,458	13,630	12,822	▲4.7%
営業利益	5,295	4,570	4,705	▲11.1%
営業利益率	39.3%	33.5%	36.7%	▲2.6pt



主要セグメント別 営業利益の増減要因分析

産業用資材

【前期実績比】
+528 百万円



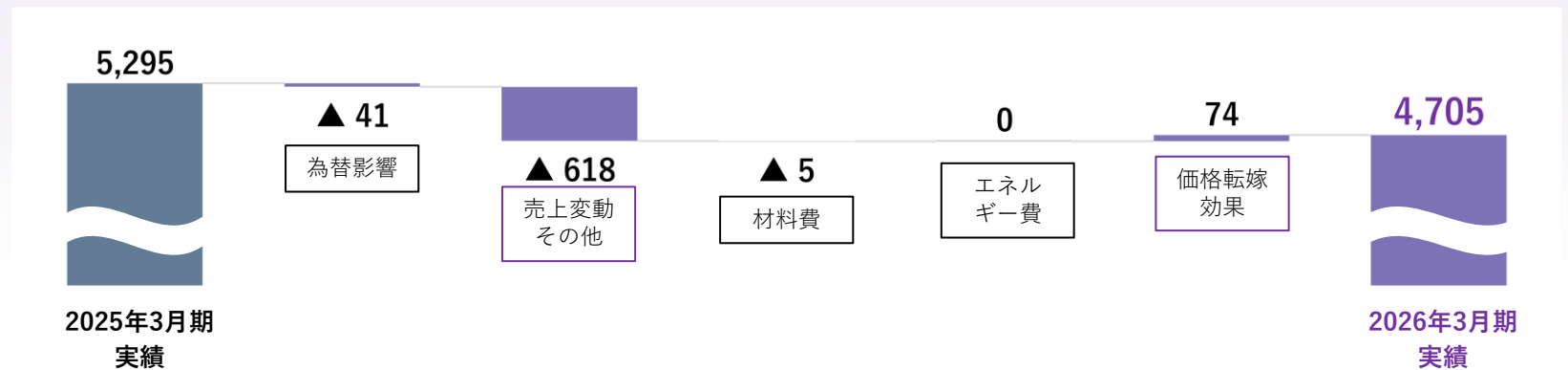
引布加工品

【前期実績比】
+297 百万円



スポーツ用品

【前期実績比】
▲590 百万円



売上高 セグメント別・地域別マトリクス

(単位：百万円)

	売上高												営業利益	
	日本		北米		アジア		他		海外		合計			
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
産業用資材	14,099	35.0%	1,805	4.5%	6,041	15.0%	1,232	3.0%	9,079	22.5%	23,178	57.5%	728	13.0%
前期 増減率	3.8%		▲3.7%		▲9.0%		▲7.4%		▲7.4%		▲0.9%		+264.9%	
引布加工品	3,099	7.7%	15	0.0%	684	1.7%	95	0.1%	794	2.0%	3,893	9.7%	165	2.9%
前期 増減率	20.3%		22.8%		▲3.0%		▲21.9%		▲5.3%		14.0%		—	
スポーツ用品	5,292	13.2%	6,892	17.1%	638	1.6%			7,530	18.7%	12,822	31.9%	4,705	83.7%
前期 増減率	▲3.3%		▲2.4%		▲30.9%				▲5.7%		▲4.7%		▲11.1%	
その他	345	0.9%									345	0.9%	23	0.4%
前期 増減率	▲0.1%										▲0.1%		▲37.2%	
合計	22,835	56.8%	8,713	21.6%	7,362	18.3%	1,327	3.2%	17,403	43.2%	40,238	100.0%	5,620	100.0%
前期 増減率	3.9%		▲2.6%		▲10.9%		▲6.6%		▲6.6%		▲0.9%		+4.1%	

(※) 営業利益には、セグメント間取引消去および全社費用を含めていない。

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
海外売上高比率 (%)	40.7	43.8	43.5	46.6	43.2

2. 2027年3月期 業績予想

- 11 2027年3月期 予想
- 12 セグメント別業績予想
- 13 業績予想・方針（産業用資材）
- 14 業績予想・方針（引布加工品）
- 15 業績予想・方針（スポーツ用品）
- 16 現状—資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

2027年3月期 予想

(単位：百万円)

	2026年3月期 実績		2027年3月期 予想		前期比	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	40,238	100.0%	40,800	100.0%	+562	+1.4%
営業利益	4,838	12.0%	5,400	13.2%	+562	+11.6%
経常利益	5,104	12.6%	5,500	13.5%	+396	+7.8%
当期純利益	3,987	9.9%	3,800	9.3%	▲187	▲4.7%
1株当たり当期純利益 (円)	208.61	—	201.93	—	▲6.68	—

■為替 (円)

USD	149.61		145.00		▲4.61	
RMB	20.81		20.00		▲0.81	

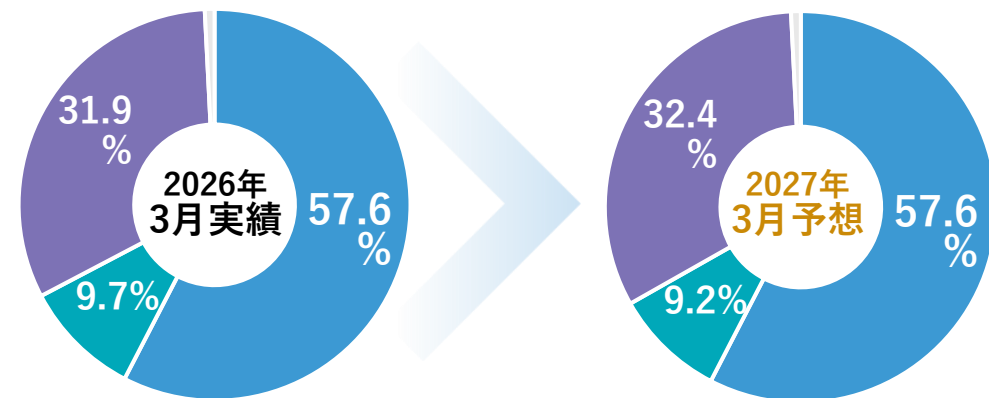
セグメント別業績予想

2026年3月期 実績 ⇒ 2027年3月期 予想

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	前期比	
			金額	増減率
売上高	40,238	40,800	+562	+1.4%
産業用資材	23,178	23,500	+322	+1.4%
引布加工品	3,893	3,750	▲143	▲3.6%
スポーツ用品	12,822	13,200	+378	+2.9%
その他	345	350	+5	+1.1%
営業利益	4,838	5,400	+562	+11.6%
産業用資材	728	1,310	+582	+79.9%
引布加工品	165	70	▲95	▲57.6%
スポーツ用品	4,705	4,740	+35	+0.7%
その他	23	20	▲3	▲13.0%
共通費等	▲783	▲740	+43	—

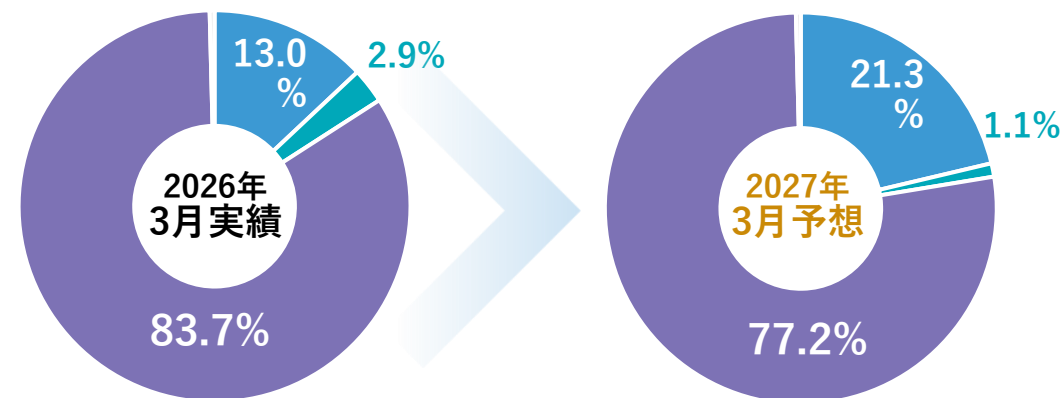
(単位：百万円)

売上高 構成比



■ 産業用資材 ■ 引布加工品 ■ スポーツ用品

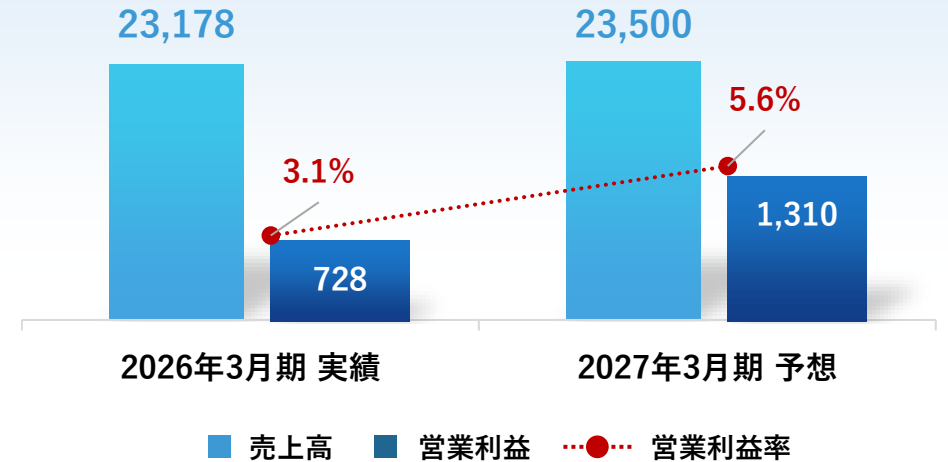
営業利益 構成比



■ 産業用資材 ■ 引布加工品 ■ スポーツ用品

産業用資材

(単位：百万円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	前期比	
			金額	増減率
売上高	23,178	23,500	+322	+1.4%
営業利益	728	1,310	+582	+79.9%
営業利益率	3.1%	5.6%		+2.5pt



2027年3月期の方針

工業用品事業

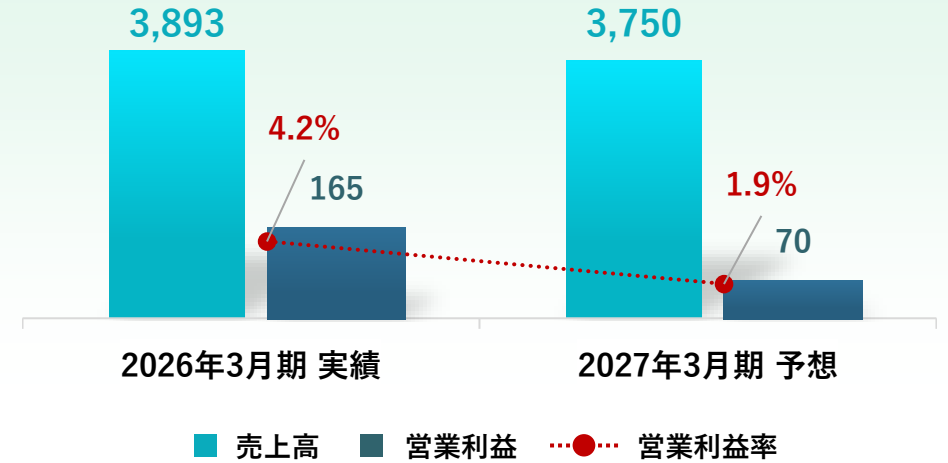
- 稼ぐ力の強化
 - ⇒ 既存領域での付加価値拡大にリソースを集中
 - ⇒ 生産拠点・工程集約、人員配置の最適化を実施
 - ⇒ 自動化・省人化投資を推進し原価低減を実現
- 新成長戦略
 - ⇒ 開発力を基盤に市場シェア拡大、新領域のマーケティングに注力
 - ⇒ 新事業開拓部との連携により、次世代事業創出に加速をつけ持続性を高める
 - ⇒ 熱膨張ゴム (FleGuard) の拡販強化 (車載バッテリー、データセンター等)

制御機器事業

- 稼ぐ力の強化
 - ⇒ 大型構造物の高精度金属加工推進
 - ⇒ システム技術を使ったモジュール化による付加価値アップ
 - ⇒ 工業用品とのコラボによる高付加価値アセンブリ品の受注促進
- 新成長戦略
 - ⇒ 液晶・半導体向け高機能製品の拡充
 - ⇒ 特殊流体制御製品の拡充
 - ⇒ 液体検知センサの販促強化
 - ⇒ 医療用シングルユース製品の拡販強化

引布加工品

(単位：百万円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	前期比	
			金額	増減率
売上高	3,893	3,750	▲143	▲3.6%
営業利益	165	70	▲95	▲57.6%
営業利益率	4.2%	1.9%		▲2.3pt



2027年3月期の方針

引布事業・加工品事業

■ 稼ぐ力の強化

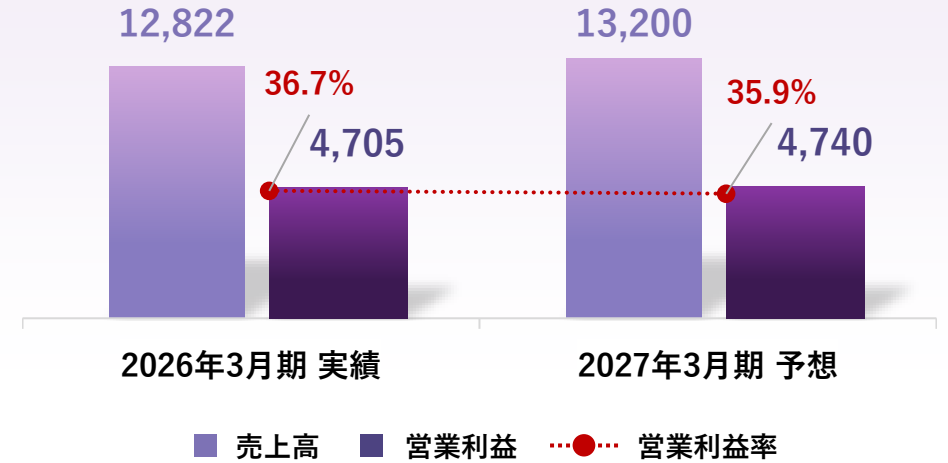
- ⇒ 高付加価値化への転換による収益構造の改善
- ⇒ 設備予防保全の強化で稼働ロス削減と収益基盤の安定化
- ⇒ 品質管理体制の再構築により、信頼と収益双方の向上を図る

■ 新成長戦略

- ⇒ 事業構造転換に向けた新市場の開拓と新製品の開発強化
- ⇒ 技術・ノウハウを資産化させ、次世代技術の基盤整備を促進
- ⇒ 小型船舶用救命浮器の販売促進
- ⇒ 外部発信の強化によるブランド価値向上と、いかだ整備事業のグローバル展開を加速

スポーツ用品

(単位：百万円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	前期比	
			金額	増減率
売上高	12,822	13,200	+378	+2.9%
営業利益	4,705	4,740	+35	+0.7%
営業利益率	36.7%	35.9%	—	▲0.8pt



2027年3月期の方針

ゴルフシャフト事業

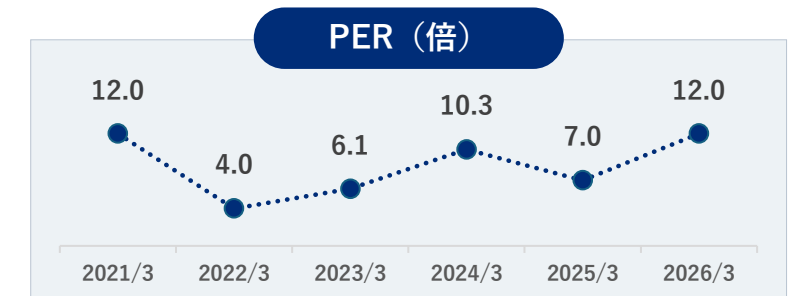
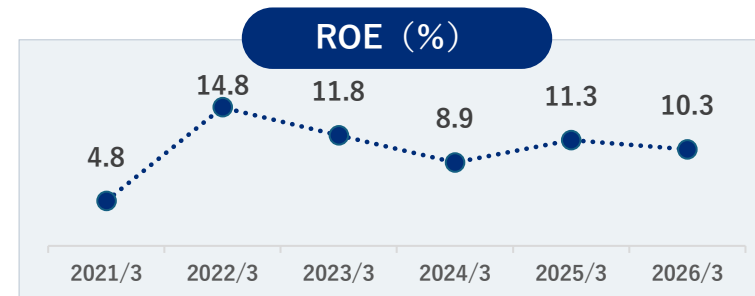
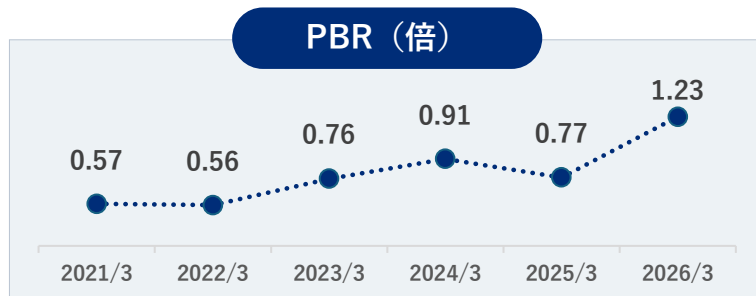
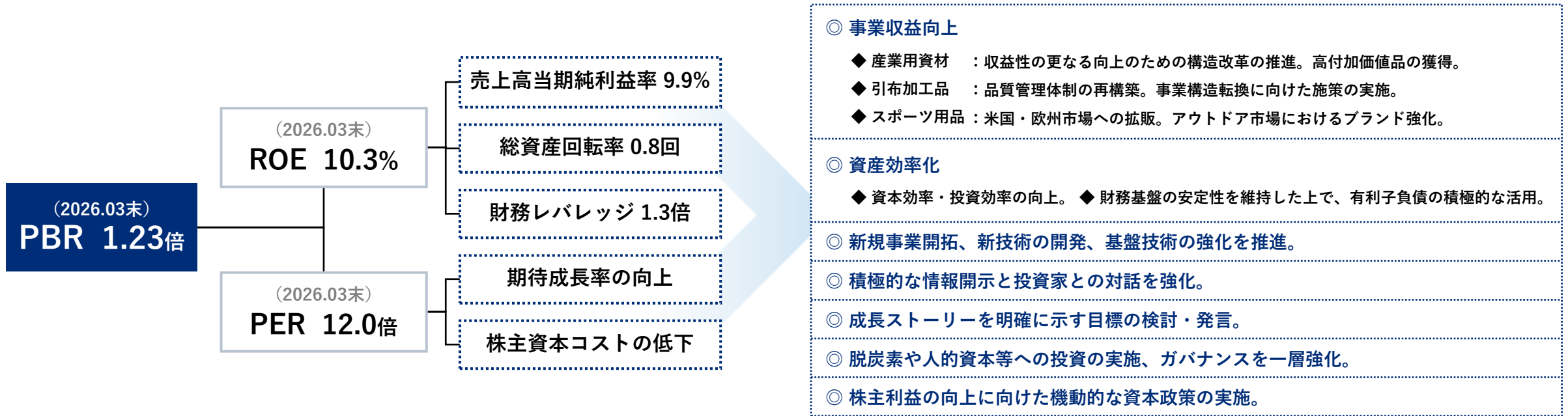
- 稼ぐ力の強化
 - ⇒ 米国・欧州市場のゴルフシャフト拡販強化
 - ⇒ ゴルフシャフト製造ラインの自動化や新規開発に必要な設備投資の実施
- 新成長戦略
 - ⇒ シャフト部門継続強化
 - ◎ 「VENTUS」「SPEEDER」を軸とした商品展開を推進
 - ◎ カーボンアイアン市場を拡大

アウトドア事業

- 稼ぐ力の強化
 - ⇒ 販売政策（自社によるECビジネス強化・販売ルート整理等）による、収益性の向上
- 新成長戦略
 - ⇒ リ・ブランディングを含めた自社ブランドの強化

現状 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

- ROEは、前年より下落したものの、10%台を維持。（2025年3月末 11.3% → 2026年3月末 10.3%）
- PERは、10倍を超える程度まで改善。
- PBRは、現状1.0倍を超える。さらなる企業価値向上を実現してゆくためには、第7次中期経営計画に則り、取組みを着実に実行する。



3. 中期経営計画の進捗状況

- 18 第7次中期経営計画
- 19 第7次中期経営計画 進捗状況①
- 20 第7次中期経営計画 進捗状況②
- 21 第7次 中期経営計画 基本方針
- 22 稼ぐ力の強化 - 生産設備や生産拠点の統廃合
- 23 稼ぐ力の強化 - 生産設備や生産拠点の統廃合
- 24 新成長戦略 - 成長に向けた先進技術戦略室の戦略的進化
- 26 株主還元
- 27 株主・投資家との対話の状況
- 28 キャッシュアロケーション - 2026年3月期 実績
- 29 キャッシュアロケーション - 投資内訳

2026年3月期-2028年3月期

第7次中期経営計画

Accelerate X
Let's Transform!

変化し続け、「変化」を加速する

加速期

経営指数

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	営業利益率
2026年3月期 (147期)	40,700	5,000	12.3%
2027年3月期 (148期)	43,000	5,800	13.5%
2028年3月期 (149期)	45,100	6,600	14.6%
3年間合計	128,800	17,400	13.5%

キャッシュアロケーション

項目	金額
戦略・更新投資	約100～120億円
株主還元	約80～90億円
運転資金	約80億円

2026年3月期-2028年3月期

第7次中期経営計画

経営指標

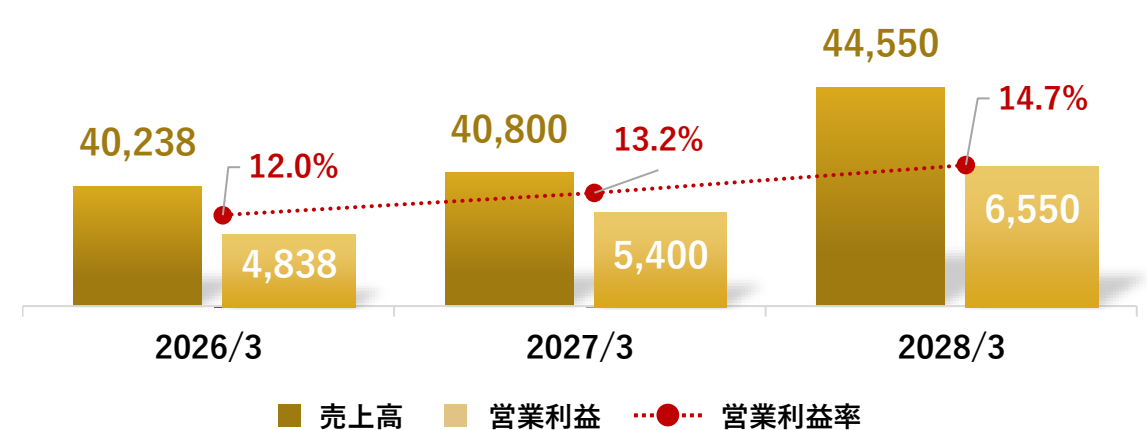
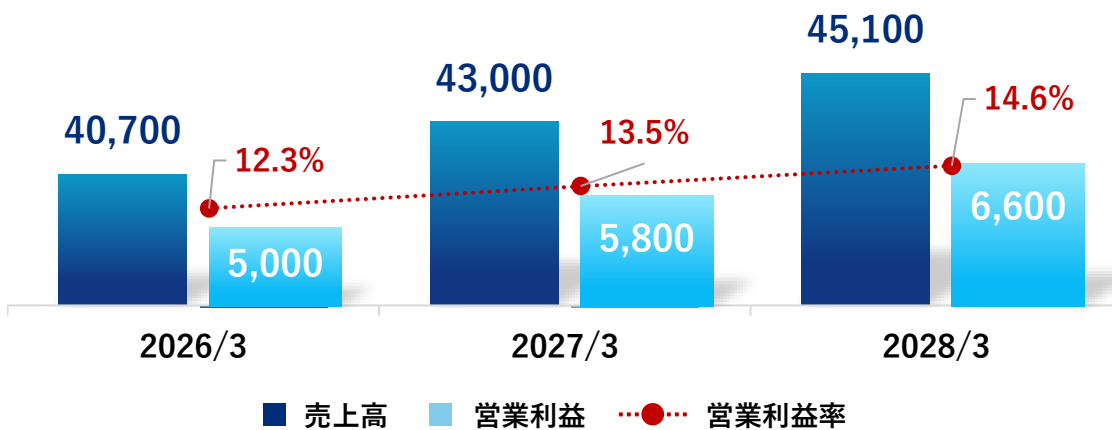
(単位：百万円)

	金額
売上高 (3か年)	128,800
営業利益 (3か年)	17,400
営業利益率	13.5%

進捗・見通し

(単位：百万円)

	金額・率	計画比
売上高 (3か年)	125,588	97.5%
営業利益 (3か年)	16,788	96.5%
営業利益率	13.4%	▲0.1%



2026年3月期-2028年3月期

第7次中期経営計画

経営指標

2028年3月期

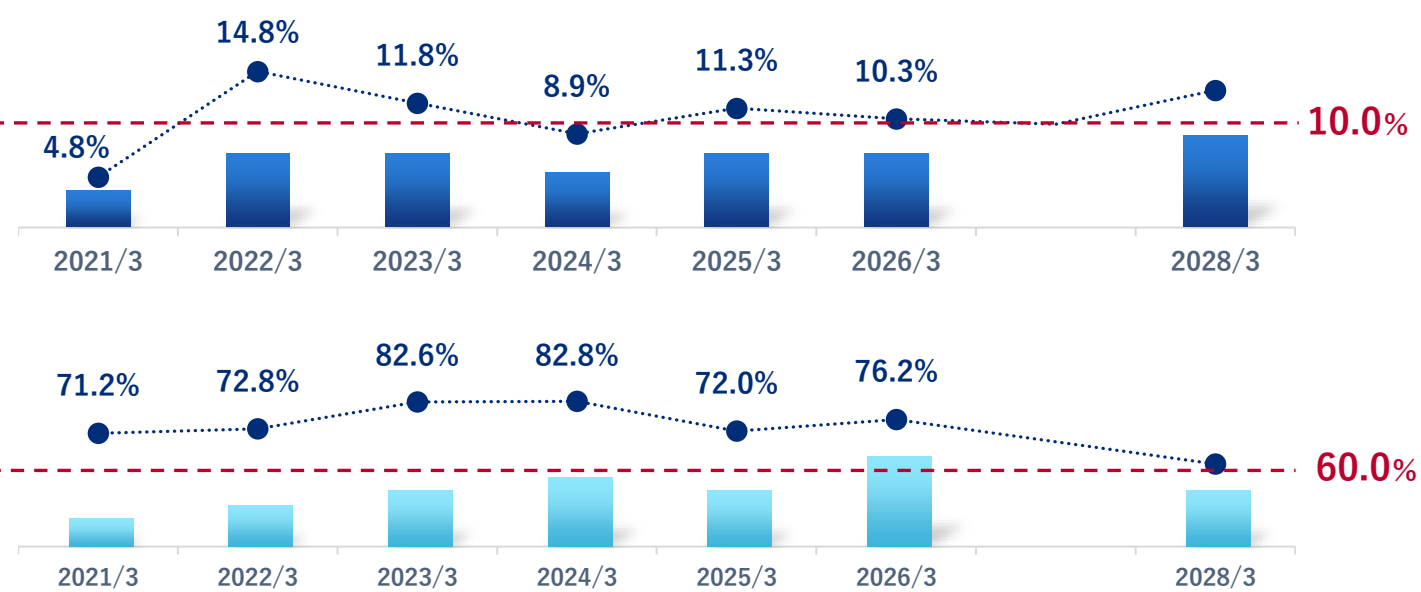
ROE	10.0%以上
PBR	1.0倍以上
PER	10.0倍以上
自己資本比率	60.0%以上

ROE

■ 営業利益

自己
資本比率

■ 自己資本



2026年3月期

■ ROE 半導体市況・消費低迷があったものの、自動車・住宅設備関連市場の受注回復や取引価格の適正化等により、順調に推移。

■ 自己資本比率 外部要因である円安（為替換算調整勘定）、保有株式の株価上昇（その他有価証券評価差額金）の影響により、前年度を上回った。

2027年3月期以降

■ ROE 2028年3月の目標達成に向け、基本方針に則り施策を実施。

■ 自己資本比率 財務の健全性を損なうことなく、必要に応じて有利子負債を活用するとともに、自己株式の取得を計画。自己資本を適切にコントロールしていく。

稼ぐ力の強化

- 各事業の資産見直し ◆ 資本コストを意識したROIC経営に注力 ◆ 生産設備や生産拠点の統廃合を検討
- 人的資本への投資 ◆ 人材ポートフォリオの実現、人材不足を補う施策 ◆ 株式報酬制度の検討
- DX投資・自動化への投資 ◆ DX推進
- ガバナンス強化への投資 ◆ サイバーセキュリティリスクの取り組み継続

新成長戦略

- 成長分野へのリソース再配分 ◆ 医療事業強化 ◆ シャフト部門継続強化
- 新規分野への投資 ◆ 他社との協業を含め、新規開発製品の強化
- R&Dの強化 ◆ 先進技術戦略室による推進

サステナビリティ推進

- ESG経営の推進 ◆ 気候変動対応への投資 ◆ 循環経済・生物多様性実現に向けた投資

株主還元方針

- 資本政策 ◆ 株主還元方針に基づく株主配当の実施 ◆ 自己株式の活用

投資家とのコミュニケーション向上

- IR活動の強化 ◆ 広報強化に向けた組織の設置 ◆ 海外IRへの取り組み

産業用資材

- 収益性および生産性の向上、また資本効率向上のため、産業用資材セグメントの生産拠点の統廃合を実施。



加須工場

事業内容	工業用品、制御機器
設立	2012年4月
閉鎖時期	2029年3月末予定

移管

- 生産拠点の合理化
- 工程の最適化・類似工程の集約
- 生産規模・体制に合わせた設備・人員再配置
- 自動化設備・省人化設備投資の推進



岩槻工場

事業内容	工業用品、制御機器、引布、加工品
------	------------------



原町工場

事業内容	工業用品、制御機器
------	-----------

- 生産拠点の集約による生産性向上
- 原価削減による収益性の向上

稼ぐ力の強化 — 生産設備や生産拠点の統廃合

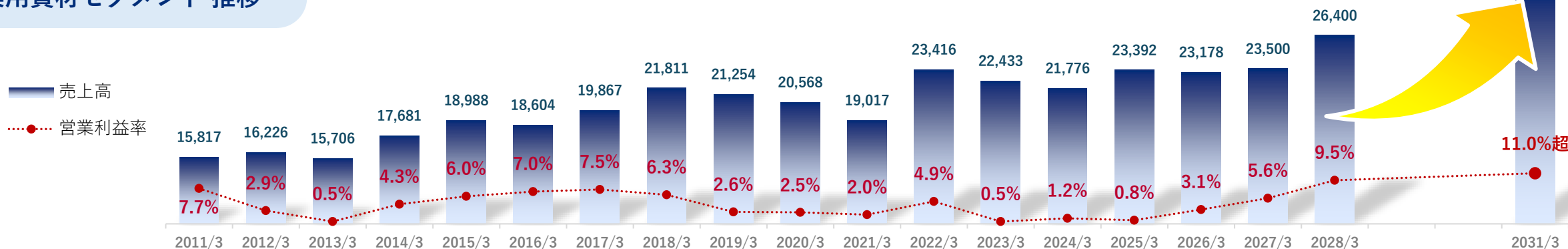
産業用資材

- 第7次中期経営計画（3か年）の売上高・営業利益は計画に届かないが、2028年3月期において、過去最高の売上高、営業利益額・率となる見通し。
- 再編終了後には、売上高は約300億円超、営業利益率は11%超を計画。

	当初 計画					見通し				再編終了（予定）
	2026/3	2027/3	2028/3	合計		2026/3	2027/3	2028/3	合計	
売上高	23,050	24,800	26,420	74,270		23,178	23,500	26,400	73,078	30,000以上
営業利益	850	1,400	2,000	4,250		728	1,310	2,500	4,538	3,400以上
営業利益率	3.7%	5.6%	7.6%	5.7%		3.1%	5.6%	9.5%	6.2%	11.0%超

（単位：百万円）

産業用資材セグメント 推移



- 成長戦略の実効性を高めるため、先進技術戦略室の役割を拡張・高度化。
 - ・ 新事業創出機能を強化するため、全社マーケティング機能を担う「新事業開拓部」を創設
 - ・ 技術戦略と事業戦略を一体で推進するため、CTO・CMO※の経営機能を組織として明確化

※CTO/CMOは個人の役職ではなく、当社が組織として担う機能を示します。

先進技術戦略室

— 技術×事業をつなぐ戦略ハブ —

新事業開拓部

— 市場・顧客起点で成長機会を創出 —

次世代技術開発部

— 技術を将来事業につながる価値へ転換 —

目指す成長イメージ

~2026

STEP
01

< 基盤構築 >

- テーマ創出・PoC推進
- 外部連携による開発加速
- 成長領域・ポートフォリオ設定

~2030

STEP
02

< 事業化 >

- 新規事業立上げ・収益化
- 新規事業を3件以上創出
- 成長市場への本格展開

~2040

STEP
03

< 事業拡大 >

- 事業の横展開・拡張
- 新規事業をさらに5件以上創出
- グローバル成長基盤確立

目標

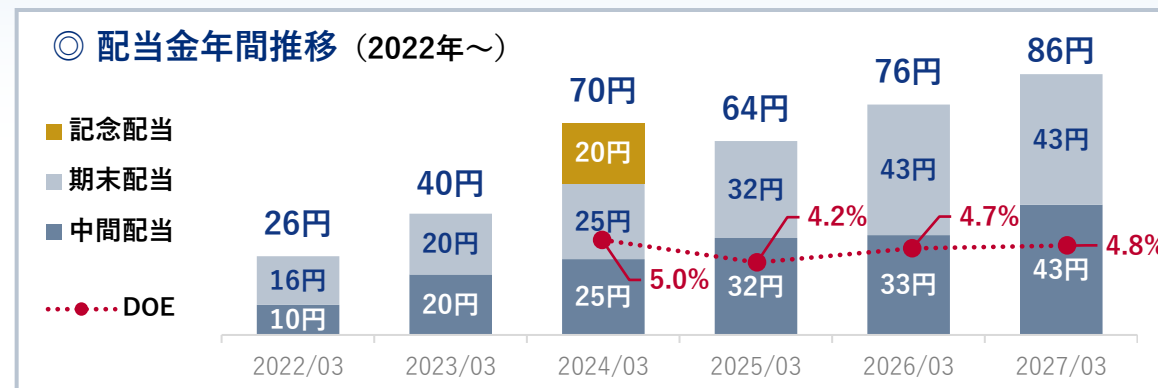
2030年：新規事業 売上 30億円以上

2040年：新規事業 売上 100億円以上

株主配当

◆株主還元方針に則り、2027年3月期における1株当たり年間配当額は86円とし、前期比では10円の増配。

	年間配当金／1株
上期	43円
下期	43円
(上期・下期) 合計	86円



自己株式

- 2025年11月：自己株式の消却を決議
- 2025年12月：自己株式の取得を決議

自己株式
(消却日：2025年11月28日)

消却 株式総数
3,371千株

自己株式
(取得期間：2026/01～07末)

取得 株式総数 (上限) 取得価額 (上限)
1,300千株 20億円

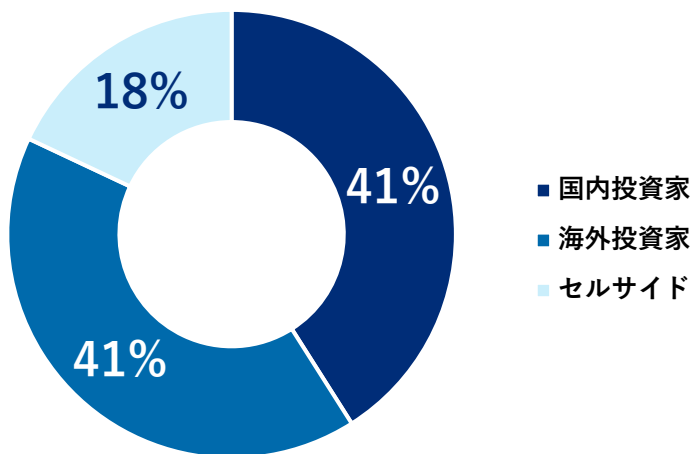
取得状況
(実績：2026/01～03末)

株式総数 取得価額
349.6千株 8.3億円

2026年3月期の面談の状況

種別	回数	役員の主な対応者
決算説明会	2回	代表取締役社長執行役員、取締役管理本部統括、取締役事業部統括
個別面談	78回	取締役管理本部統括、社外取締役

01. | 面談した株主・投資家の概要



02. | 経営陣へのフィードバック状況

種別	頻度
IR活動状況	半期ごと
投資家との対話の内容	面談実施時

03. | 主なテーマや投資家の関心事項

- ・ 利益率改善についての取組み
- ・ 事業環境の動向、当社の認識
- ・ 各事業における特性
- ・ PBR1倍超に向けての施策
- ・ 資本政策

04. | 株主・投資家からのご意見・関心

Q. PBR1倍超の施策について進捗を教えてください	A. 本資料にて進捗を開示
Q. 地域別の売上が分かりにくい	A. 決算短信への記載を追加、決算説明会資料にも記載を追加
Q. 計画に対しての実績はどのようになったのか	A. 本資料にて進捗を開示

キャッシュアロケーション | 2026年3月期実績

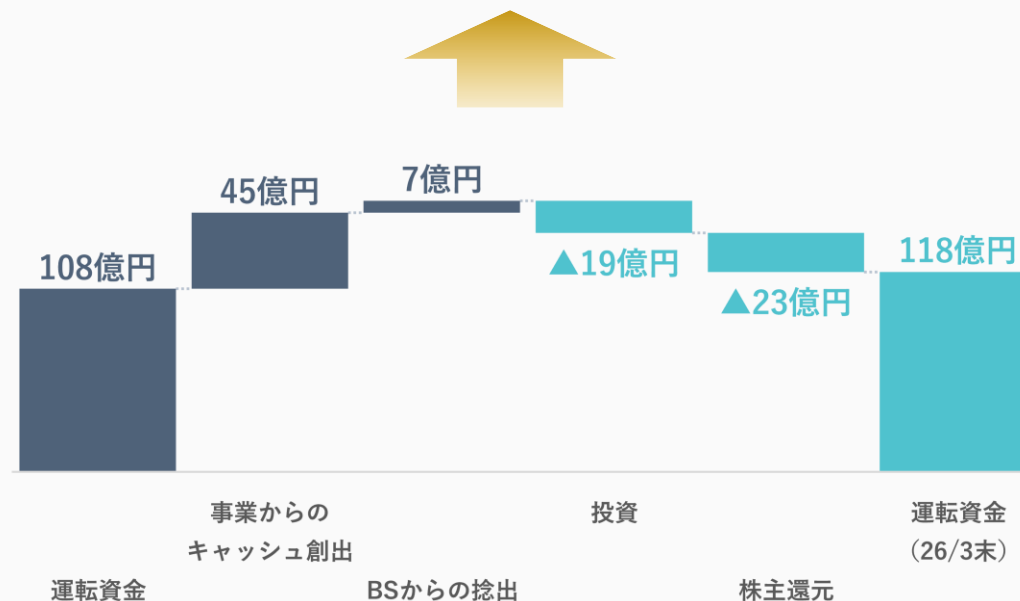
- 創出したキャッシュを事業のさらなる成長と株主還元に向けて適切に配分する。
- 中長期的な企業価値向上へつなげていく。

第7次中期経営計画（3年間） キャッシュアロケーション予想

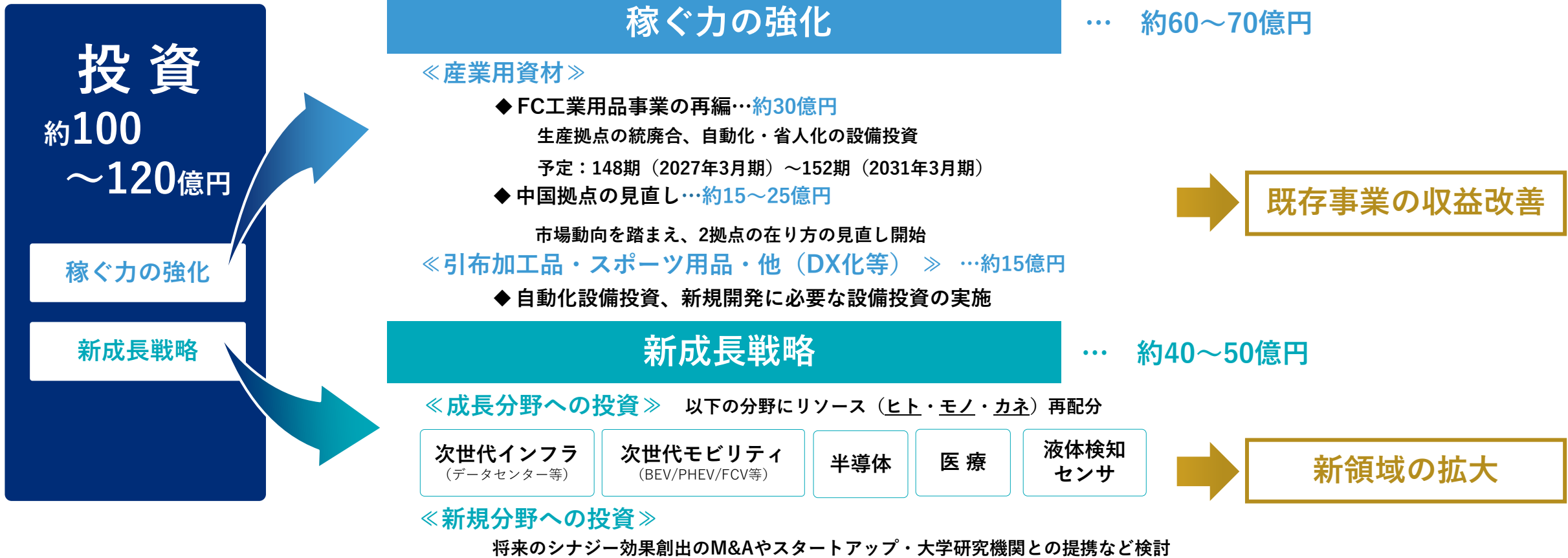


1年目（2026年3月期）：キャッシュフロー

既存事業の収益改善、新領域の拡大に向けた
戦略的投資の実行



- 既存事業の更なる発展、成長および新規分野への投資を加速させる。
- 投資機会状況に応じ、資金配分は柔軟に見直しを行う



有利子負債の活用も視野。

安定した財務基盤の維持を前提として、レバレッジを積極的に活用する。

4.

ゴルフシャフト事業紹介

30	1. Intro
31	2. 市場成長率、リージョン別市場規模
32	3. 市場シェア
33	4. 高付加価値ビジネスへの転換
34	5. ブランド力の強化
35~36	6. 開発戦略
37~39	7. 商品戦略
40~42	8. 開発戦略

作成日：2026年6月12日

1. Intro

- 1973年 ゴルフシャフト事業創業
- 1974年 福島県南相馬市の原町工場でゴルフシャフトの生産開始

- 1994年 米国カリフォルニア州に“Fujikura Composite America, Inc.”設立
- 1995年 フィットティング直営店“フジクラゴルフクラブ相談室”設立（現在全国6店舗）
- 2004年 ベトナムハイフォン市の”FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, INC.”
内でゴルフシャフトの生産開始

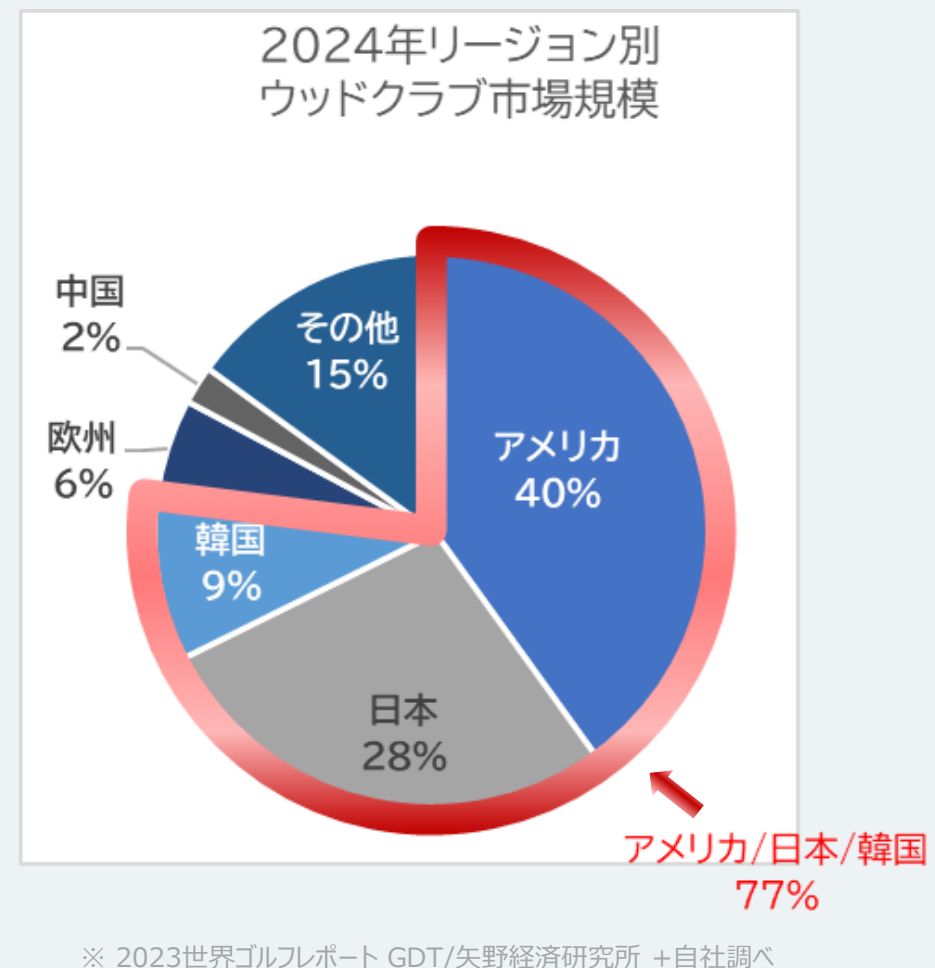
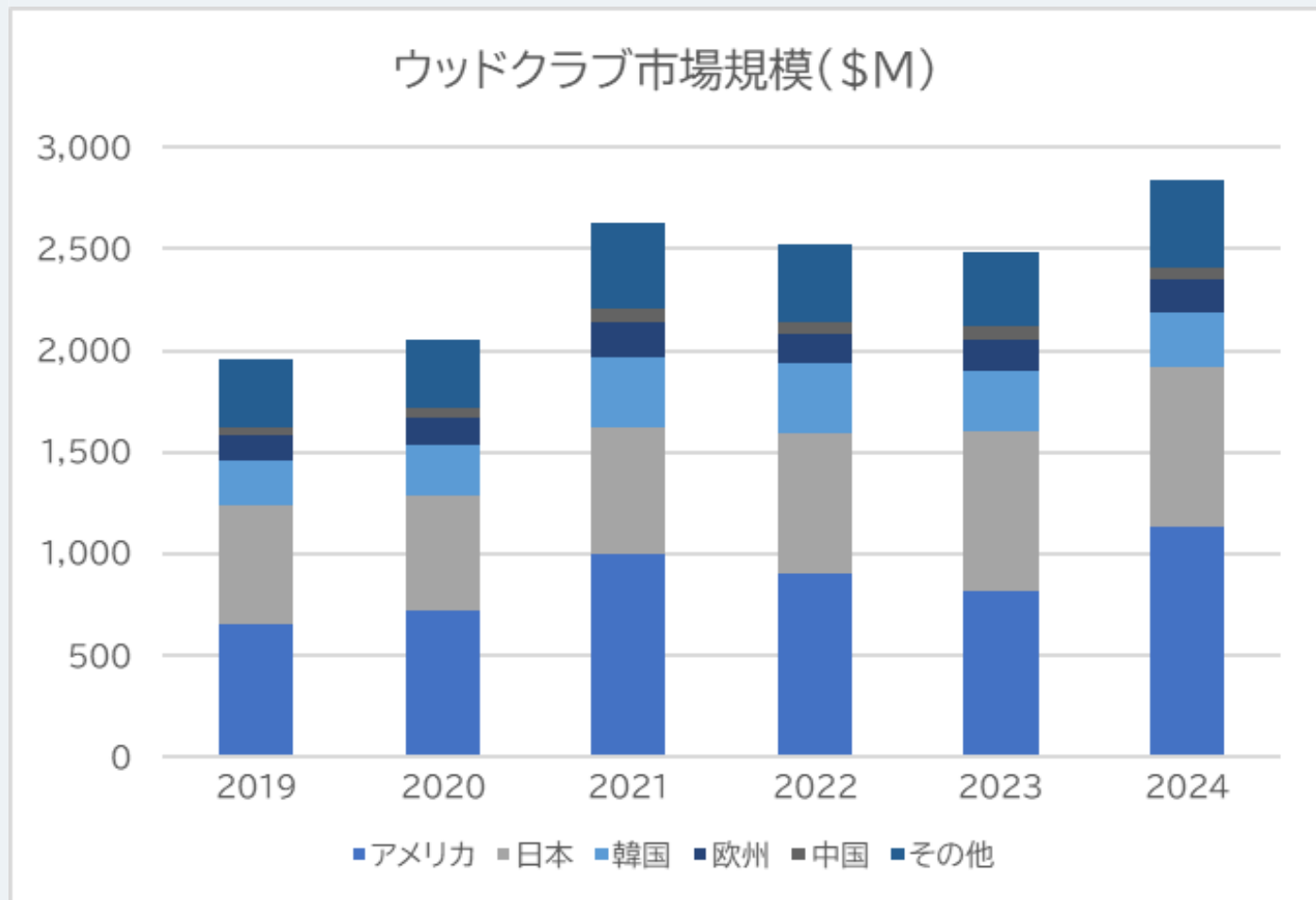
- 2010年 国内生産拠点をテストフィールド併設の小高工場に移設
- 2011年 東日本大震災により小高工場操業停止、原町工場に移設し操業再開

- 2024年 国内生産拠点を小高工場に再移設
- 2025年 “フジクラゴルフクラブ相談室”五反田店をオープン



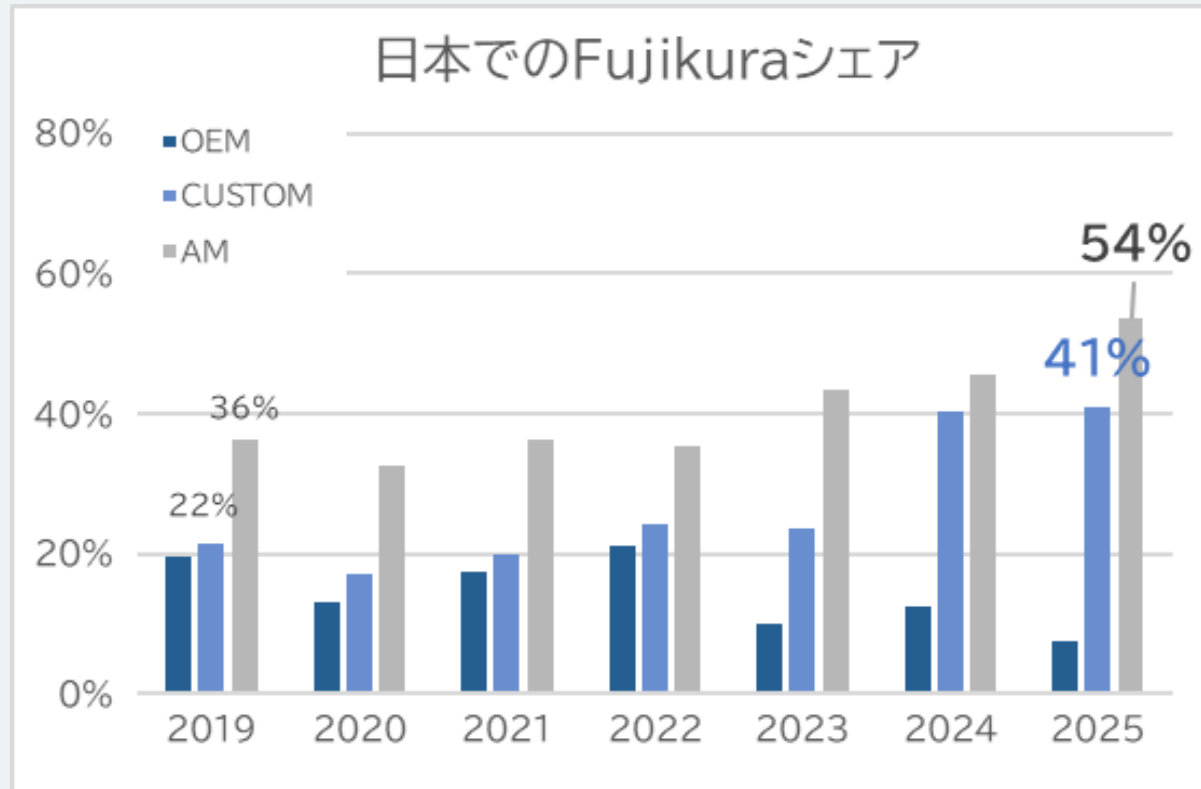
2. 市場成長率、リージョン別市場規模

- 2021年のコロナ禍の反動で大幅にゴルフ市場が活性化、その後の反動もあるが2019年比で**4.6%の成長率**
- **アメリカ/日本/韓国** で**77%の市場規模**

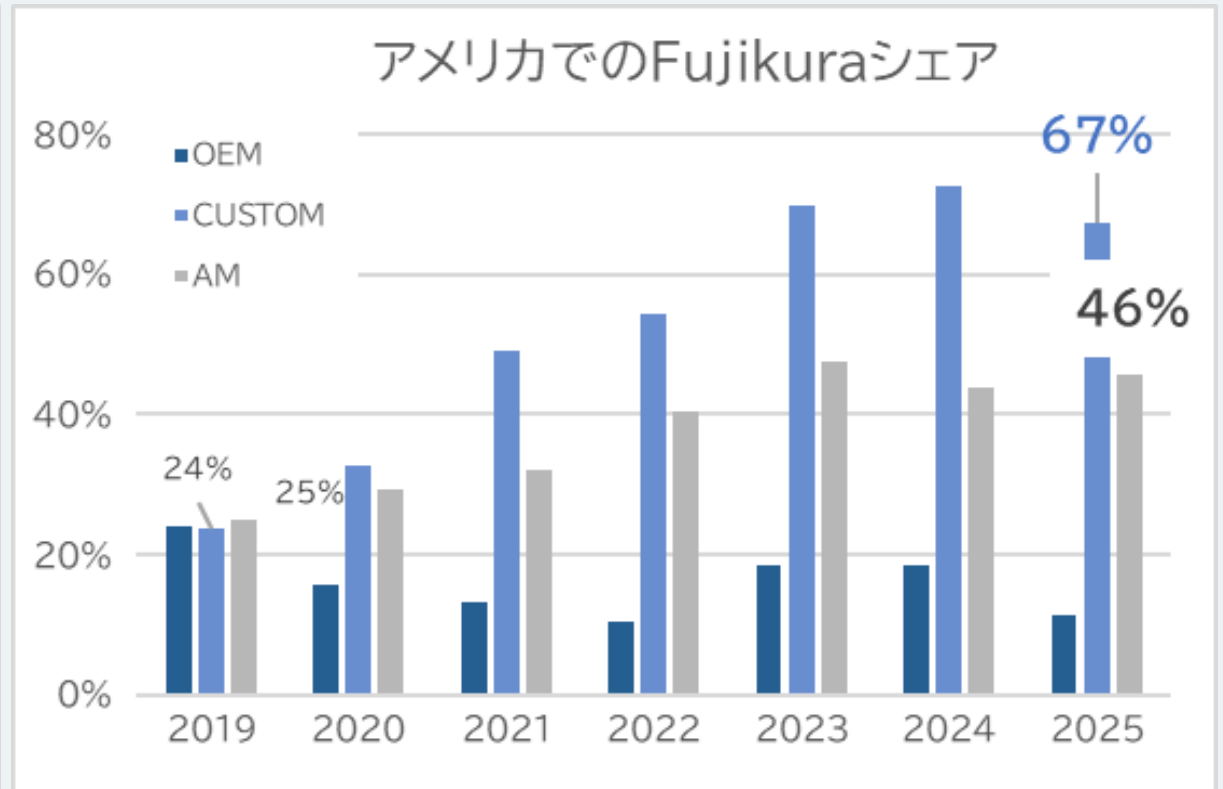


3. 市場シェア

□ 日米ともに自社ブランドの アフターマーケット（AM）、カスタムのシェアを伸ばしている



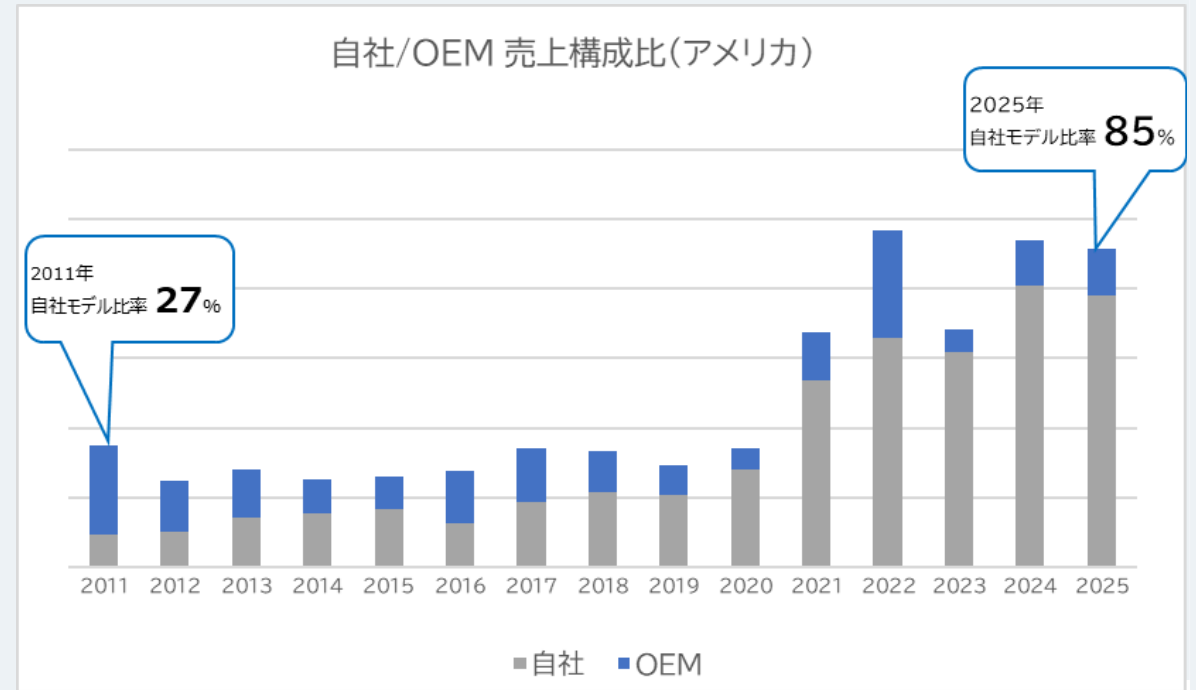
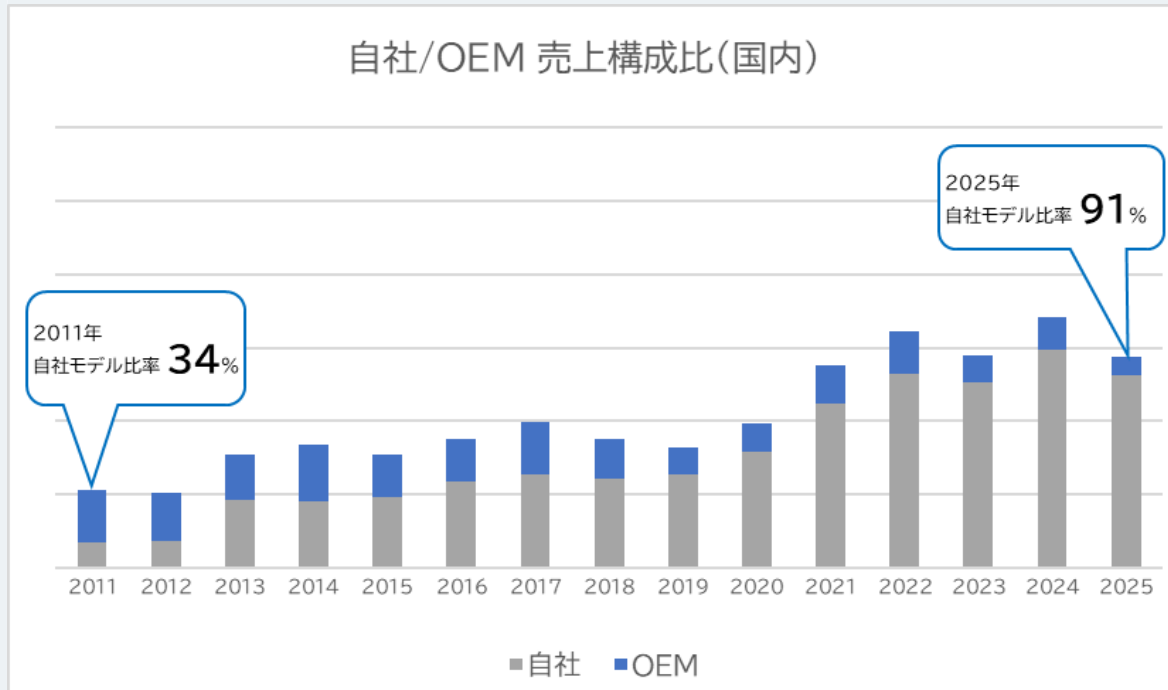
※ 矢野経済研究所+自社調べ



※ GolfData Tech+自社調べ

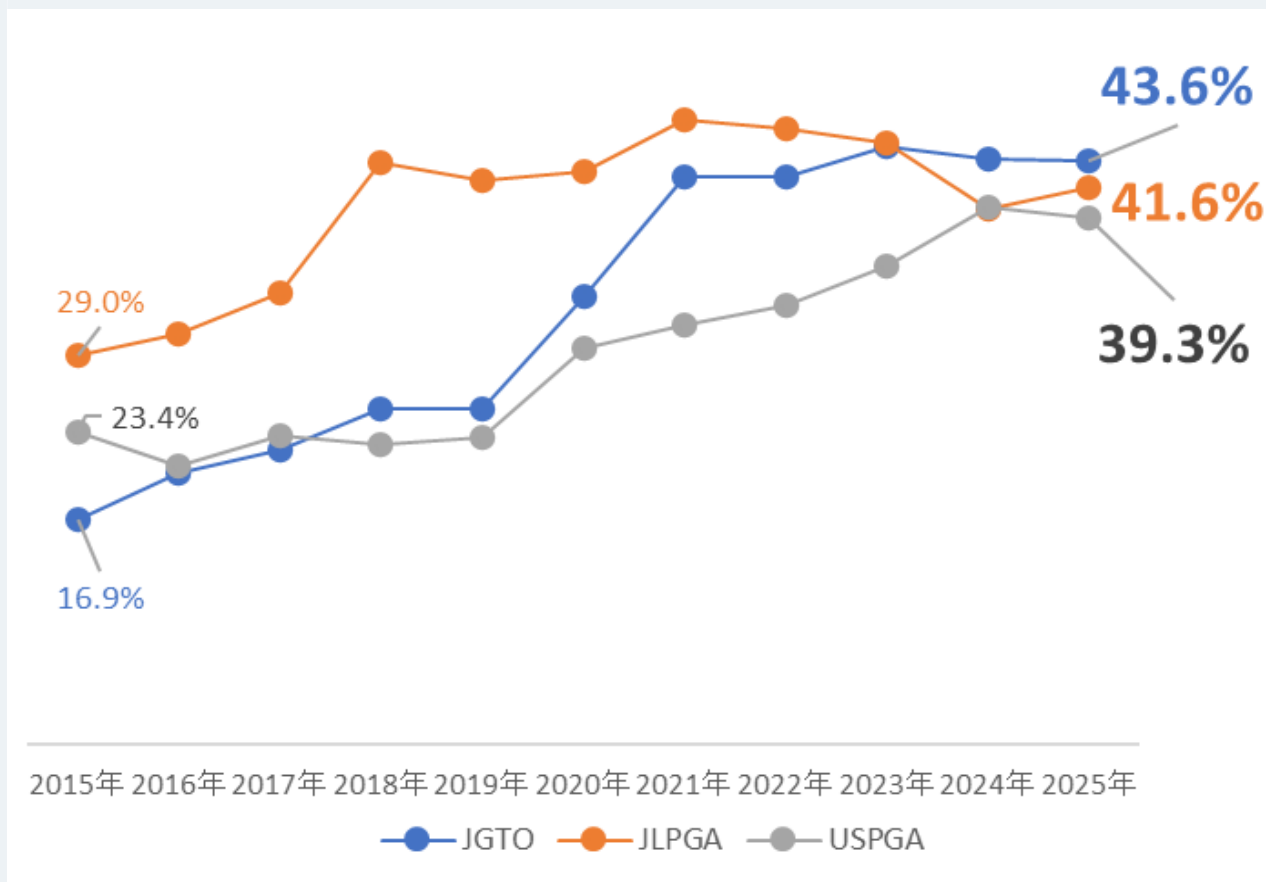
4. 高付加価値ビジネスへの転換

- 日米ともにクラブメーカーのOEMビジネスへの依存から、高付加価値の自社ブランド強化へシフト
- 日本は2014年の "SPEEDER Evolution"、2021年の SPEEDER NXの発売、
米国は2019年の "VENTUS" がターニングポイント



5. ブランド力の強化

- 日本の男女ツアー、米国のUSPGAツアーでいずれも高い使用率を達成
- これらを強みとしてPRすることで、ブランド価値向上を訴求し、購買力を高める



- * 男子ツアー (JGTO)は、Darrell Surveyのデータ
- * 女子ツアー (JLPGA)は、Darrell Surveyのデータと一部自社調べ
- * アメリカ男子ツアー (USPGA)は、Darrell Surveyのデータ

VENTUS MAKING MAJOR HISTORY

#1 ON TOUR 2025 TOUR SUCCESS

Fujikura is the number one driver shaft on the PGA Tour for six years running. On average, more than one in three players each week tee it up with a Fujikura shaft in their driver. We're proud to have fifteen out of the top thirty world ranked players, including world number one and two, trust Fujikura shafts on the biggest stage. All figures reported from the trusted third-party source, Darrell Survey.

62% 2025 WIP PERCENTAGE
24 2025 TOUR WINS
4/4 2025 MAJOR WINS
7/10 TOP WORLD RANKED PLAYERS TRUST VENTUS

#1 DRIVER & WOOD SHAFT ON TOUR FOR SIX YEARS RUNNING

What no shaft brand has done before, a clean sweep of all four men's Majors in the same year. VENTUS Black was trusted in the drivers of all 2025 Major Champions on their way to victory. The ultimate validation for stability, consistency and control under the highest pressure.

Fujikura

NUMBER ONE THE #1 SHAFT

中日クラウンズ 2026

使用率 **46.7%**

fujikura_japan 茨城ゴルフ倶楽部

THE #1 SHAFT

ワールドレディスチャンピオンシップ サロンパスカッパ

使用率 **39.2%**

fujikuragolf

WINNING NUMBERS IN AUGUSTA, GEORGIA

330 DRIVING DISTANCE NUMBER ONE AVG

10 BIRIDIES ON PAR 5'S TIED NUMBER ONE

6. 開発戦略 (3Dモーションキャプチャシステム enso®)

- Fujikura独自のモーションキャプチャ解析システムで、スイング中のシャフトの挙動を動的に分析、ゴルフプレーヤーのスイングにおいてシャフトがどのように機能しているかを解析する

SPEEDER NX GREEN / TECHNOLOGY <3D Motion Capture System -enso-> 

enso TECHNOLOGY
3D Motion Capture System



 **USA's enso**

- ・ヒューマンテストによるデータ取得
- ・データ解析による傾向の仮説立て

↑
情報共有
↓

 **JAPAN's enso**

- ・ロボットテストによる仮説の効果検証
- ・検証結果による製品開発

SPEEDER NX GREEN / TECHNOLOGY <3D Motion Capture System -enso-> 

 **enso**
USA's enso

- ・ツアーからジュニアまでのシャフトフィッティングやテストを行っている。
- ・ヒューマンデータを蓄積し、ビッグデータ解析、傾向分析を行う。
- ・VENTUSやSPD NXなどを初めとする多くの製品の開発に貢献。



SPEEDER NX GREEN / TECHNOLOGY <3D Motion Capture System -enso-> 

 **enso**
JAPAN's enso

- ・ロボットの再現性あるスイングにより、シャフト動解析を行う。
- ・ヘッドシャフト全体にマーカーを取り付け、各点のクラブスピードやしなり量推移などの計測が可能。
- ・FCAから得られたテクノロジー理論の実証にも活用。



6. 開発戦略 (テクノロジー)

□ Enso® にて実証されたテクノロジーをメインブランドに適用することで、飛距離性能と操作性の両立を高次元で達成する

	 <p>VELOCORE+ WHAT IS VELOCORE+?</p> <p>VeloCore+ is the next generation of Fujikura's ground-breaking proprietary technology. Fujikura's team of engineers have continued to innovate and developed an enhanced technology for the new 2024 VENTUS, VeloCore+. Featuring a re-engineered multi-material bias core, VeloCore+ enhances the feel and performance of VENTUS with an additional premium bias core material, promoting even tighter dispersion and increased ball speeds.</p>	<p>ヘッドの高MOIの効果을最大限に生かし、smash factorとボールスピードを最大化するために、マルチマテリアルバイアスコアが特徴</p> <p>適用モデル：24VENTUS、26VENTUS TR</p>
	 <p>SPEEDER NX GREEN / TECHNOLOGY <VTC></p> <p>VARIABLE TORQUE CORE TECHNOLOGY Variable Torque Core <VTC></p> <p>VTCをアップデート (子元振り剛性アップ)</p> <p>X vs EI EI [Nmm²] X [mm]</p> <p>X vs GIp GIp [Nmm²] X [mm]</p>	<p>打ち易さを維持したまま弾道特性を変化させるために振り剛性をシャフトの一部を意図的に変化させるテクノロジー</p> <p>適用モデル：SPEEDER NX全モデル</p>
	 <p>TECHNOLOGY DHXII</p> <p>SPEEDER NX GOLD TECHNOLOGY</p> <p>DHXII</p> <p>カーボンシャフトの特長である設計の自由度を活用し45°以外の第2のバイアス層を新たに精層</p> <p>90° 45° NEW Second Bias Layer 第2のバイアス層 0°</p>	<p>シャフトの曲げと振れのスイング中のロスを抑え、スイング中の振り心地とヘッドスピードアップを図るために、第2のバイアス層を追加したテクノロジー 特開2025-151483</p> <p>適用モデル：SPEEDER NX VIOLET/GOLD</p>

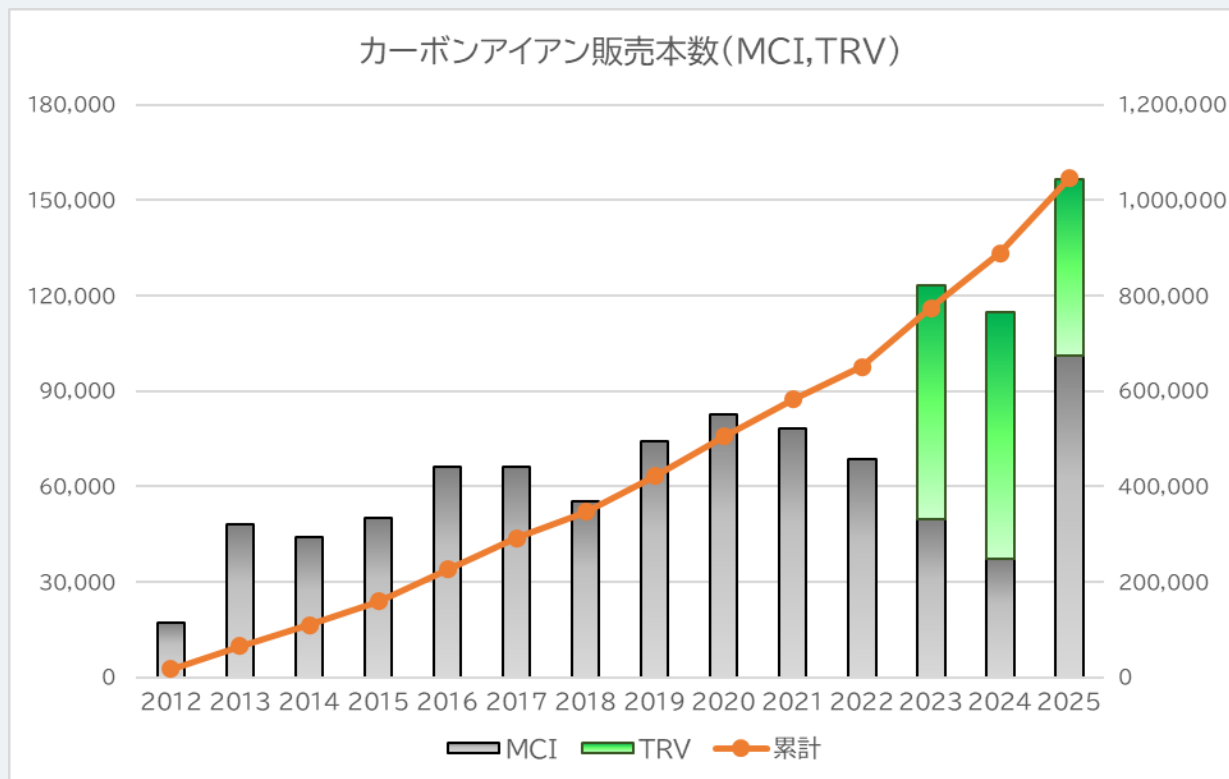
7. 商品戦略（カーボンアイアンシャフト）

□ 藤倉コンポジットの事業理念である“複合化技術”を強みとしたカーボンと異素材を複合したシャフト

■ MCI（Metal Composites Iron）



■ TRAVIL IRON



2012年発売のMCI、2023年発売のTRAVILのアイアンシャフト2モデルで累計100万本の販売実績を2025年に達成

7. 商品戦略（カーボンアイアンシャフト）

□ 藤倉コンポジットの事業理念である“複合化技術”を強みとしたカーボンと異素材を複合したシャフト



TECHNOLOGY_01 MCI

テクノロジー①/Metal Composite TECHNOLOGY

Metal Composite TECHNOLOGY

メタル・コンポジット・テクノロジーとは、
カーボンの設計自由度を最大限に発揮する為の重心調整技術
フジクラシャフト独自の最新テクノロジーで、カーボンと金属の複合化が可能に

シャフト重心位置の調節により、幅広い重量帯で
スチールシャフト並みのスイングウェイトを実現可能



Metal Composite TECHNOLOGY

特許 | 4880063



MATERIALS TRAVIL IRON

Fujikuraだからこそ可能な複合技術

METAL 金属

RUBBER ゴム

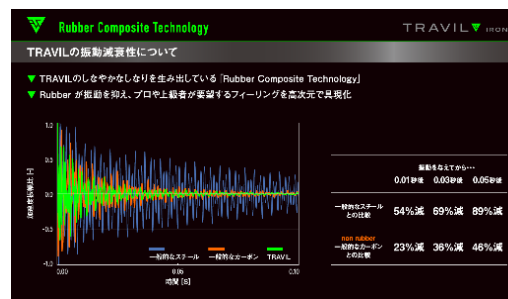
GRAPHITE カーボン

フジクラ独自の重心調整技術により、
振り心地を損ねることなく、
スチールシャフトと同等のクラブバランスへ
※特許第 4880063 号

ゴムによりソフトな打感が得られ、
シャフトのしなり戻りを緻密にコントロール
→ プレーヤーが慕うシャフト挙動を実現
※特許出願中

Tour Ability Structure(仮)を採用し、手元の剛性を抑えつつ、先端を高剛性化
→ シャフトが粘ること、ヘッドの操作性を高め、緩やかな入射角に
※補強を用いることなく、部分的な剛性差をなくして、滑らかなEI分布にする積層法
※特許第 4335289 号

「グリーンを狙って止められる」シャフトの誕生



Rubber Composite TECHNOLOGY

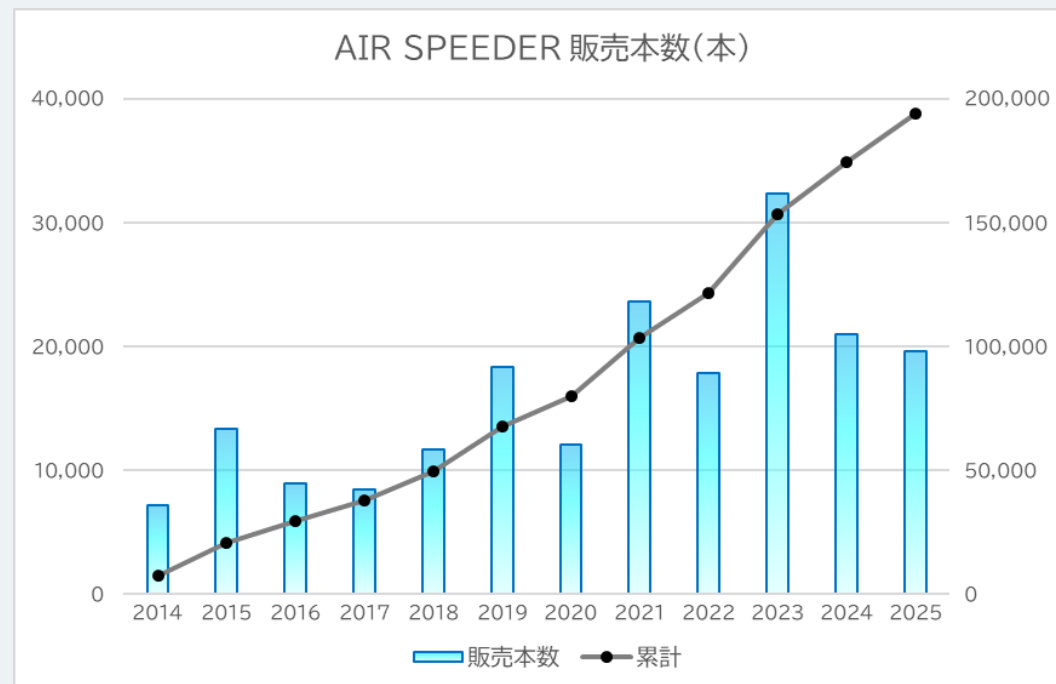
特許 | 7739158

7. 商品戦略

□ アスリート志向の高いVENTUS/SPEEDER NX の他に軽量シャフト “AIR SPEEDER“ を展開し、レディースやシニア、ジュニアへ飛距離UPへの提案

AIR SPEEDER




特長：肉厚の薄い軽量シャフトでは必須の潰れを抑制するためにマルチフープテクノロジーを適用し、潰れと曲げの強度アップを達成、また超低樹脂カーボンシートや30 μ mの極薄カーボンシートを複数使用することで33.5gの軽量化を達成する



2014年発売、2023年モデルチェンジ、累計20万本近くの販売実績

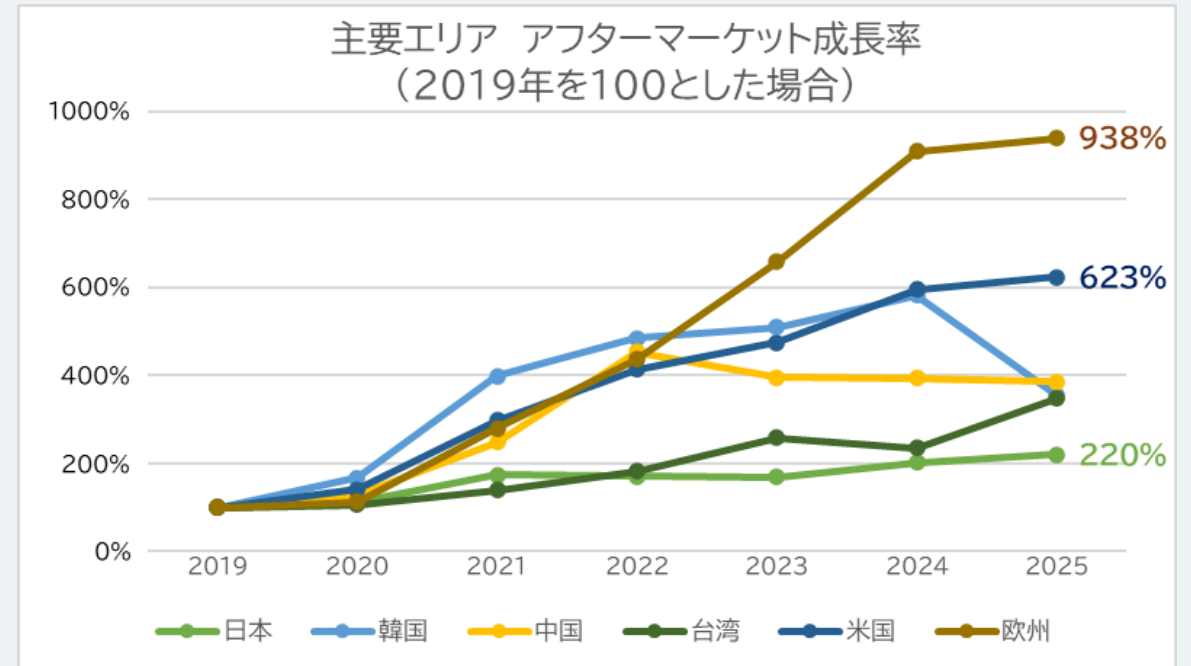
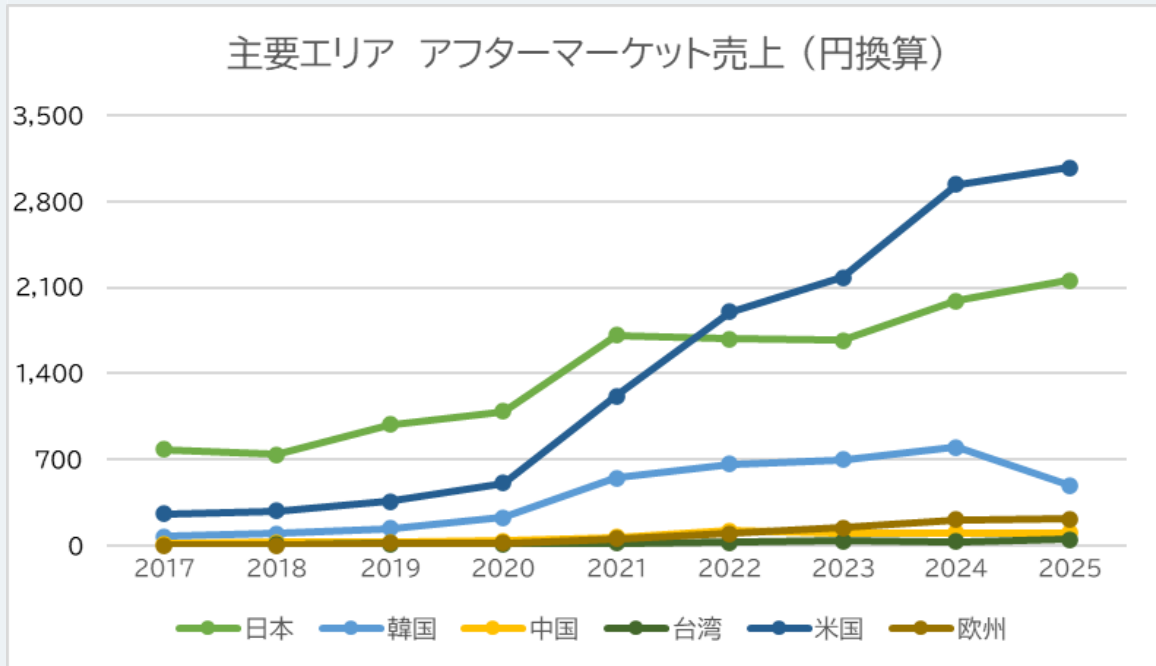
8. 販売戦略

- リージョン別に最適な販売サイクルを設定し維持することで市場へ対応する
- 国内に関しては、VENTUS発売計画の無い年にそれ以外のモデルを発売し、市場を活性化させる

モデル	2020		2021		2022		2023		2024		2025		2026	
	SS	FW	SS	FW	SS	FW	SS	FW	SS	FW	SS	FW	SS	FW
 VENTUS	VENTUS BL		VENTUS BK		VENTUS TR				24VENTUS		VENTUS HB		26VENTUS TR	
	EVO7		NX BLUE		NX GREEN		NX BLACK		NX VIOLET		NX GOLD		NEXT NX	
							AIRSPEEDER		TRAVIL		DIAMOND SPEEDER		MCI	
													BOOST	
 SPEEDER NX														
 OTHERS														

8. 販売戦略

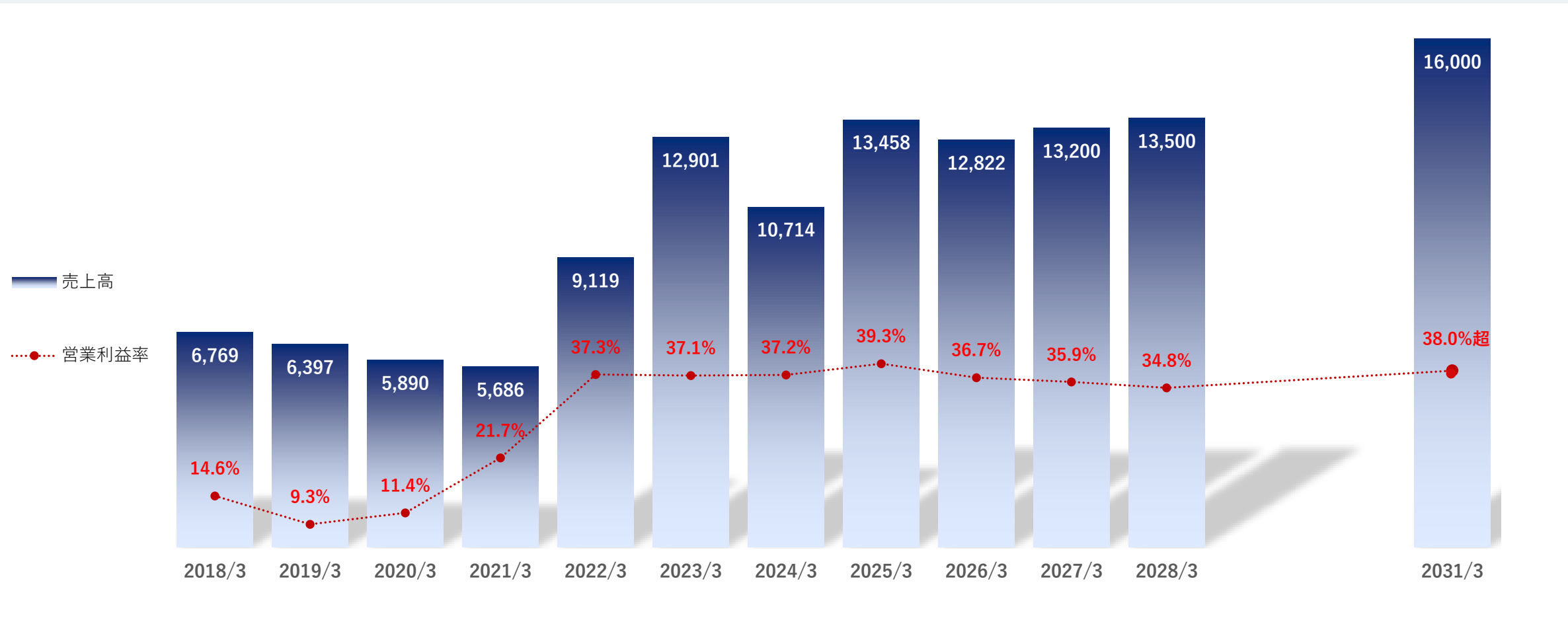
- リージョン別ではアフターマーケット市場の成熟した日本と韓国を強化、リシャフトビジネスが成長しているアメリカに加えて欧州市場への販促を拡大する



8. 販売戦略

□ 利益率の高いアフターマーケット市場をさらに強化し、高利益率を維持しつつ、先の販売戦略（米国/欧州強化、カーボンアイアンシャフト強化）に基づき売上を拡大

(単位：百万円)



5. Appendix

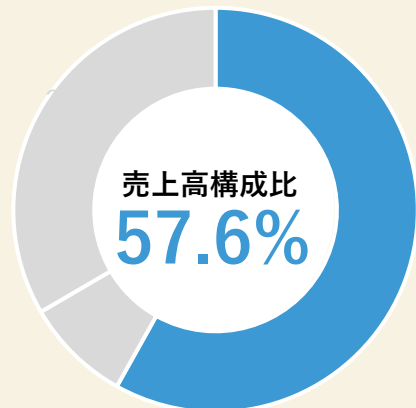
- 44 売上構成（産業用資材）
- 45 売上構成（引布加工品）
- 46 売上構成（スポーツ用品）
- 47 生産・受注実績
- 48 経営データ推移
- 49 主要な連結子会社
- 50 沿革
- 51 免責事項

2025年3月期

売上高

23,392

百万円

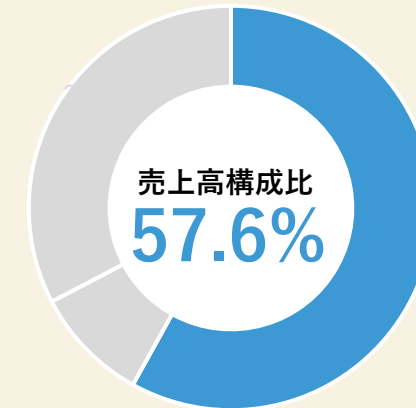


2026年3月期

売上高

23,178

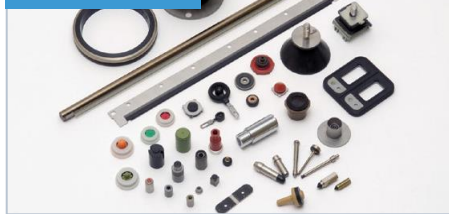
百万円



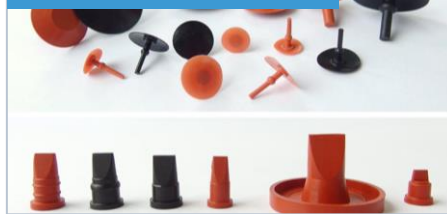
Oリング/パッキン・ガスケット



複合成形部品



逆止弁 アンプレラ ダックビル



レギュレータ



輸液回路用逆止弁



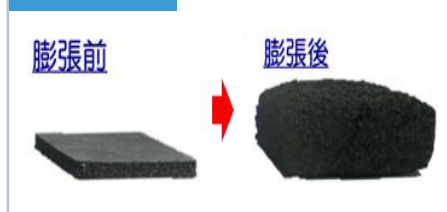
BFダイヤフラム



水ガバナ



熱膨張ゴム



除振台



液体検知センサ



売上構成 | 引布加工品 - 主要セグメント

2025年3月期

売上高

3,415

百万円

売上高構成比
8.4%

2026年3月期

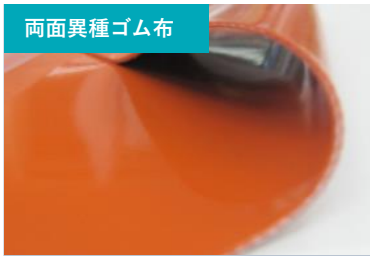
売上高

3,893

百万円

売上高構成比
9.2%

両面異種ゴム布



膨脹式救命いかだ



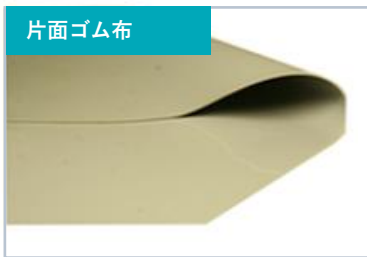
小型船舶用膨脹式救命いかだ



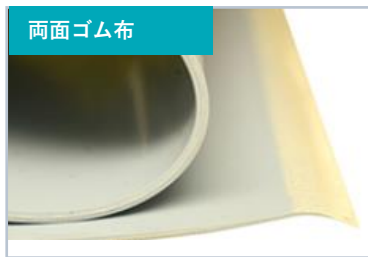
シューター垂直降下式乗込装置



片面ゴム布



両面ゴム布



膨脹式救命浮器



CO2回収バッグ



航空機用救命ボート



売上構成 | スポーツ用品 – 主要セグメント

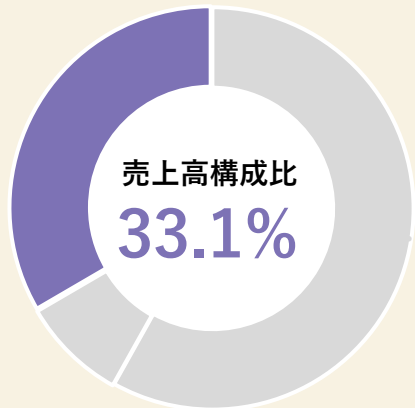
2025年3月期

売上高

13,458

百万円

売上高構成比
33.1%



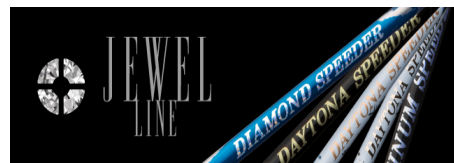
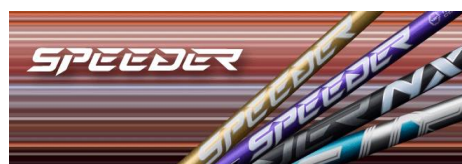
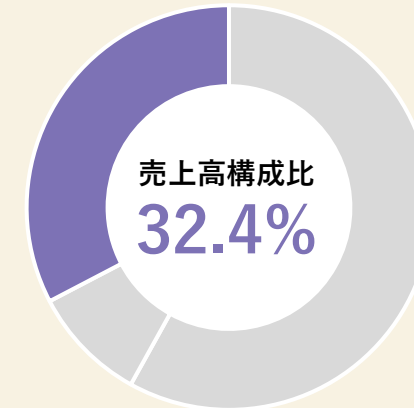
2026年3月期

売上高

12,822

百万円

売上高構成比
32.4%



生産・受注実績

生産

	2025年3月期		2026年3月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
産業用資材	24,006	74.7%	23,625	75.1%	▲381	▲1.6%
引布加工品	3,940	12.2%	4,385	13.9%	+445	+11.3%
スポーツ用品	4,180	13.0%	3,445	11.0%	▲735	▲17.6%
合計	32,126	100.00%	31,455	100.0%	▲671	▲2.1%

受注

	2025年3月期		2026年3月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
産業用資材	24,049	58.3%	23,428	56.8%	▲621	▲2.6%
引布加工品	3,563	8.6%	3,789	9.2%	+226	+6.3%
スポーツ用品	13,280	32.2%	13,676	33.2%	+396	+3.0%
その他	346	0.8%	346	0.8%	0	—
合計	41,238	100.00%	41,239	100.0%	+1	0.0%

2026年3月期 受注残高

金額	増減率
2,885	+9.5%
1,106	▲8.6%
1,022	+509.1%
—	—
5,013	—

		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
総資産	(百万円)	37,750	40,374	44,075	47,827	50,690
負債	(百万円)	10,277	7,032	7,576	13,394	12,085
純資産	(百万円)	27,473	33,342	36,499	34,433	38,604
資本金	(百万円)	3,804	3,804	3,804	3,804	3,804
流動比率	(%)	275	504	530	378	478
負債比率	(%)	37	21	21	39	31
1株当たり純資産	(円)	1,304	1,440	1,576	1,797	2,051
1株当たり当期利益	(円)	181	181	140	190	208
1株当たり配当金	(円)	26	40	70	64	76

営業活動によるキャッシュフロー	(百万円)	4,795	2,442	5,271	6,886	5,738
投資活動によるキャッシュフロー	(百万円)	▲418	▲857	▲1,057	▲3,170	▲1,901
財務活動によるキャッシュフロー	(百万円)	▲3,772	▲1,731	▲1,378	▲3,449	▲2,898
現金および現金同等物の増加額	(百万円)	1,125	323	3,000	648	1,001

期末従業員数	(人)	2,611	2,459	2,307	2,315	2,252
期末発行済株式総数	(株)	23,446,209	23,446,209	23,446,209	23,446,209	20,074,968
自己株式数	(株)	2,388,768	293,790	0	4,288,816	1,256,506

主要な連結子会社

杭州藤倉橡膠有限公司（杭州藤倉）

中国浙江省所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点、販売のための分公司を上海と広州に有する。原材料から金型の開発も担い中国地域のR&D拠点でもある。1996年3月18日設立。資本金40,036千元。

安吉藤倉橡膠有限公司（安吉藤倉）

中国浙江省所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点。2016年7月第二工場竣工、同年10月より稼働している。自動車部品用に最新鋭の自動化成形加工設備を導入している。2011年2月28日設立。資本金149,465千元。

FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, INC. (FCH)

ベトナム北部ハイフォン市に所在の産業用資材、引布加工品およびゴルフ用カーボンシャフトの製造拠点。2014年6月に第二工場を竣工、2017年4月には検査棟が竣工、同年より稼働している。2002年9月18日設立。資本金2,947千米ドル。

IER Fujikura, Inc. (IFI)

米国オハイオ州所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点。北米での営業を強化すると同時に、自動車分野以外の市場開拓を進めている。1958年創業のIER社を2006年3月に買収し、同年5月24日設立。資本金3,800千米ドル。

Fujikura Composite America, Inc. (FCA)

米国カリフォルニア州カールスバッド所在のゴルフ用カーボンシャフトの開発および販売拠点。最大のゴルフ市場である米国において、ブランディング戦略の推進と更なるシェアの確保に邁進している。1994年7月14日設立。資本金4,000千米ドル。

株式会社キャラバン

1952年に製造開始した軽登山用「キャラバンシューズ」をはじめとして、登山、アウトドア用品の開発製造販売および輸入販売を行っている。1954年6月19日設立。資本金156百万円。

1900～	1901年10月	藤倉電線護謨合名会社を創立、ゴム引布の製造を開始
	1910年 3月	電線部門とゴム部門を分離、藤倉合名会社防水布製造所を設立
	1920年 4月	株式会社に改め藤倉工業株式会社を設立
	1948年10月	藤倉ゴム工業株式会社に商号変更
	1949年 5月	東京証券取引所に上場
	1953年 2月	藤栄運輸株式会社（現連結子会社）を設立
	1959年 4月	大阪営業所（現大阪支店）を開設
	1969年 4月	福島県原町市（現南相馬市）に原町工場開設
1970～	1971年 9月	埼玉県岩槻市（現さいたま市岩槻区）に岩槻工場開設
	1972年10月	茨城県勝田市（現ひたちなか市）に勝田出張所（現勝田営業所）開設
	1985年 6月	藤栄産業株式会社を設立
	1991年 4月	株式会社キャラバン（現連結子会社）を子会社化
	1994年 7月	米国カリフォルニア州ピスタ市にFujikura Composite America, Inc.（現連結子会社）を設立
1996年 5月	中国浙江省杭州市に杭州藤倉橡膠有限公司（現連結子会社）を設立	
2000～	2000年11月	名古屋営業所を開設
	2002年 9月	ベトナムハイフォン市にFUJIKURA COMPOSITE HAIPHONG, Inc.（現連結子会社）を設立

2000～	2006年 5月	米国オハイオ州のIER Fujikura, Inc.（現連結子会社）を子会社化
	2010年11月	福島県南相馬市に小高工場開設
	2011年 1月	岩槻工場内にエンジニアリングセンター開設
		2月
	9月	本社事業所及びスポーツ用品営業部を東京都江東区へ移転
	2012年 3月	韓国ソウル市にFujikura Composite Korea, Co., Ltd.を設立
	4月	埼玉県加須市に加須工場開設
	2017年4月	FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, Inc.の検査棟を竣工
	2019年4月	藤倉コンポジット株式会社に商号変更
	2020～	2020年4月
4月		原町工場内にLIM棟開設
2022年 6月		有限会社テクノロジーサービスを子会社化
2024年 9月		東日本大震災で被災した、小高工場を再稼働
		11月
2026年 3月	勝田営業所を閉鎖	

【注意事項】

資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

藤倉コンポジット株式会社
人事総務部 総務広報チーム
TEL : 03-5747-9444 FAX : 03-5747-9781